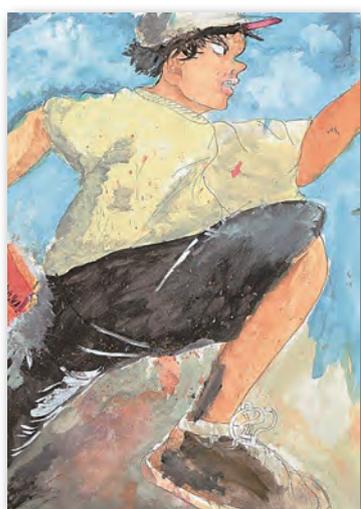


研修資料

話し合い

令和5年度
第67号



静岡県P T A連絡協議会

研修資料

話し合い



家庭・学校・地域がつながりあって子どもを育てるPTA活動の推進
～ 今だからこそ深めよう、人と人とのつながり・絆 ～

静岡県PTA連絡協議会

は じ め に

令和5年度県P連研修資料「話し合い」が出来上がりました。

長引くコロナ禍でPTA活動も思うように進まない中でしたが、特色ある19の実践事例を皆様にお届けすることができました。

さて、県P連では、単位PTAの負担軽減と県P連の経費の削減を目指して事業の見直しに取り組んでまいりました。その結果、令和3年度第2回理事会において、令和4年度以降の「話し合い」は隔年発行とし、各単位PTAに一部無償配布することが決定いたしました。したがって、従来のように購入希望を募ることは致しません。

具体的には、静岡県PTA連絡協議会研究大会が実施される年度には研究実験委嘱PTAの発表資料が発行されるため、大会が行われない年度に「話し合い」を発行することになります。

また、装丁は、研究実験委嘱PTAの発表資料と同じくA4版、各事例は1PTA見開き2ページを原則とし、5月の定期総会後に各単位PTAに届くように進めております。

広い静岡県内では、地域の特色や学区の事情、そこに通う児童生徒の実態やPTA会員の意識など様々な違いがあり、抱えている課題もそれぞれです。しかし、それらの根底にある「次代を担う子ども達のために、家庭・学校・地域等が情報を共有し、協働してよりよい教育環境をつくりあげていきたい」という願いは共通していると思います。

本誌には、そんな熱き思いのもとで、子どもたちのために創意と工夫を凝らして取り組んだ貴重な実践事例が綴られています。ぜひお手元に置いていただき、PTAの研修や実践活動の一助にさせていただきますようお願いいたします。

また、貴重な事例を提供してくださった執筆者の皆様並びに関係者の方々に心から御礼申し上げます。

令和5年5月

静岡県PTA連絡協議会

令和3・4年度 静岡県PTA活動方針と重点

○ 活動方針

家庭・学校・地域がつながりあって 子どもを育てるPTA活動の推進 ～ 今だからこそ深めよう、人と人とのつながり・絆 ～

(設定理由)

令和2年度の県P連の活動は、全世界を席卷したコロナ禍のもとにあって前例のない異例続きのものとなりました。3か月にも及ぶ休校措置を受けて子どもたちは、友達や先生とも会えない、集まれない、そして進級した喜びを分かち合うこともできない新年度のはじまりでした。

年度当初の教育活動はもちろんPTA活動においても、当たり前のように流れていた時間が止まり、空間が断たれ、「例年踏襲」が難しい状況を経験することになりました。

それは、否応なしに活動の見直しを考えることにつながり、結果的に令和1・2年度の、サブテーマ「～PTA活動の未来像を研究しよう～」の具現化を推し進める形となりました。

この「今までのようにはできないピンチ」が「新しい方法を模索するチャンス」となり、各単位PTAにおいても、時代や状況に対応した大胆なアイデアやチャレンジによって、「参加しやすい、やってよかったPTA活動」の模索が今も続いています。

コロナがもたらした「新しい生活様式」は、人と人との物理的な距離を遠ざけ、マスクで笑顔を隠し、近くで思いを伝えあう機会を奪う側面を持っています。しかし、私たちの大切な子どもたちは、温かい言葉を交わしたり、表情でつながりあったりしないでは健全に成長することはできません。そして、日々子育てに奮闘する保護者も然りです。

先行き不安な今だからこそ、困ったときに助けてくれる人がいる、孤独ではない、そして自分の考えを理解し、尊重してくれる人がいる……そんな安心感や絆を深められるPTAの仲間でありたいと思います。

そこで本年度からは、「新しいつながり方」を模索し、情報の共有や意思の疎通をより深めていきたいと思います。それはまず、対面して語り合うことで生まれる温度感や一体感の大切さを再認識し、効果的な場面設定を工夫していくことから始まります。そのうえで、会合への参加の仕方や役割分担などを、各単位PTAの状況や社会の変化に応じて思い切って変えてみることも必要でしょう。

このような「新しいつながり方」への小さなチャレンジが、会員一人一人の「それなら自分にもできる」という参画意識や「仲間と一緒に創り上げた」という絆の実感につながっていくことを願うものです。

○ 重点事項

領 域	重 点
1 PTA 組 織 と 運 営	(1) 会員意識の高揚を図ろう。 (2) 魅力ある組織と運営を目指そう。 (3) 父親の活動への積極的参加を推進しよう。
2 家 庭 教 育	(1) 「教育の原点は家庭にある」との認識に立ち、社会規範の育成・基本的生活態度の定着・思いやりの心の育成・心身の逞しさの育成等に努力しよう。 (2) 家庭・学校・地域との連携を図り、心豊かな子どもの育成に努力しよう。 (3) 子どもが心地よい居場所を持てる温かな家庭を創り、親子の絆を深めよう。
3 教 育 環 境	(1) 情報機器（PC・携帯電話等）の正しい使い方を身に付けさせよう。 (2) 関係機関と連携し、子どもを取り巻く環境浄化に努めよう。（TV・図書・広告等） (3) 学校・地域の（人的・自然）教育環境をよくしよう。
4 人権・共生	(1) 命の尊さ、他を思いやる豊かな心を育む活動を推進しよう。 (2) 家庭・学校・地域が連携して人権共生意識の高揚を図ろう。 (3) 他団体とも連携し、いじめや虐待・暴力を根絶しよう。
5 健康・安全	(1) 心身ともに健康な子どもを育てよう努力しよう。 (2) 子どもの食生活の向上に努力しよう。 (3) 学校・地域・警察等と連携し、子どもを危険から守ろう。（交通安全・防犯等）
6 広 報 活 動	(1) 魅力ある広報紙を工夫しよう。 (2) 会員を繋ぎ、意識を高め、役に立つ情報を提供する広報活動に努力しよう。 (3) 情報化時代に適応する多様な情報提供を工夫しよう。
7 地 域 連 携	(1) 地域の特色を生かした子どもの社会参加を支援しよう。 (2) PTA・学校・地域を結ぶネットワークづくりに努力しよう。 (3) 子どものボランティア精神の育成を図ろう。
8 多文化共生	(1) 郷土を愛するとともに、他国の様々な文化も尊重できる子どもを育てよう。 (2) 様々な国の人たちと交流できる活動を推進しよう。 (3) 交流体験を通じてコミュニケーション能力を育成しよう。
9 学 校 教 育 へ の 協 力	(1) 教育改革への理解を深めよう。 (2) 学校の教育活動と関わり、「生きる力」を育む支援や協力を努めよう。 (3) PTAが、学校と地域社会の接点にあることを理解し、地域を取り込んで学校を支援しよう。

も く じ

○はじめに	3
○令和3・4年度静岡県PTA活動方針と重点	4

〈東部地区実践事例〉

(1) 保護者同士がつながり合い、家庭の教育力向上を目指した家庭教育学級に	10
下田市立朝日小学校	教頭 高橋 綾子
(2) 学校教育活動への協力	12
～PTA活動の取組を通して～	
伊豆の国市立大仁中学校	PTA会長 塩谷 和樹
(3) コロナ禍におけるPTA活動	14
三島市立中郷西中学校	教頭 横山 寛
(4) 自分にできることをみんなとともに	16
長泉町立北小学校	PTA会長 石坂 かおり
(5) 地域のイベントでカフェ店員体験	18
裾野市東地区 三校連携委員会（裾野東中 向田小 裾野東小）	
裾野市立東小学校	PTA会長 萩原 克哉
(6) 創立70周年へ向けたPTAの活動	20
沼津市立門池小学校	PTA会長 蓮池 光一
(7) 学校・家庭・地域の連携をめざすPTA活動	22
御殿場市立富士岡中学校	教頭 伊藤 賢一
(8) 子どもたちの為に出来る事はなにか。笑顔ある学校生活を送ってもらう為に。	24
富士市立富士川第二小中一貫校 松野学園	
中学部PTA会長 佐野 由宜	
(9) 〘学校応援団、として今できるPTA活動を	26
富士宮市立上野小学校	PTA会長 平野 良治

〈中部地区実践事例〉

(10) つながり育む笑顔	30
～地域×子育て世代＝地域の発展～	
静岡市立服織小学校	PTA顧問 西村 賢
(11) 持続可能なPTA活動を目指して	32
～在り方から考える組織改革～	
焼津市立大村中学校	PTA会長 星野 倫弘
(12) 「あいさつ」からはじまる自分づくり絆づくり	34
～支え合う学校・高め合う学校～	
藤枝市立青島北中学校	PTA会長 牧田 恵李華
(13) 子どもを夢中にさせる「共育」環境づくり	36
島田市立六合東小学校	校長 滝下 祥央
(14) 新しいPTAの姿を求めて	38
～コロナ禍だからこそ、新しいPTA活動の創造を～	
吉田町立中央小学校	教頭 原田 正裕

〈西部地区実践事例〉

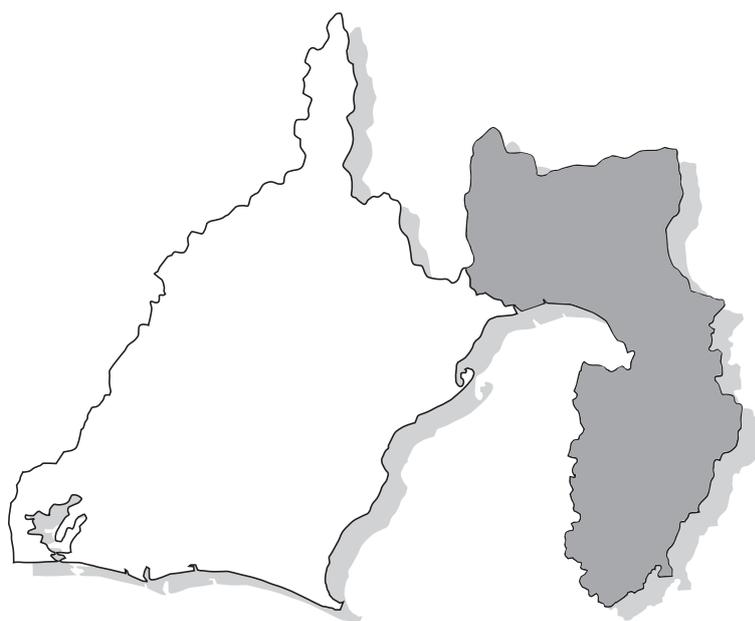
(15)	新しい森小 コロナ禍のPTA活動	42
	森町立森小学校 PTA会長 鈴木 宏 和	
(16)	未来へつながるPTA活動	44
	～未来を感じられる日々を子どもたちに～	
	磐田市立豊田南中学校 教頭 杉 田 直 樹	
(17)	コロナ禍が問う持続可能なPTA活動について	46
	袋井市立袋井東小学校 PTA会長 足 立 謙一郎	
(18)	できる人が・できるときに・できることを	48
	湖西市立東小学校 教頭 大 石 誠	
(19)	Sustainableな活動へ	50
	～持続可能なPTAを目指して～	
	浜松市立伊佐見小学校 PTA顧問 伊代田 尚 志	

〈表紙の作品紹介〉

「第27回 静岡県児童・生徒紙上美術展」推奨作品より

左上	御殿場市立御殿場南小学校	1年	赤堀	稜太	「かまきりをつかまえたの」
中上	焼津市立港小学校	4年	北野	花瑠	「さんご山」
右上	掛川市立和田岡小学校	2年	鈴木	櫻子	「ないたおに」
左下	御殿場市立原里小学校	5年	福嶋	優太	「はじめの一步」
中下	磐田市立岩田小学校	4年	柴田	旭	「夕日をバックに飛ぶ鳥」
右下	浜松市立佐鳴台中学校	1年	佐藤	千都	「夢キリン」

(学校・学年は受賞当時)



〈実践事例提供：東部地区〉

- 下田市立朝日小学校
- 伊豆の国市立大仁中学校
- 三島市立中郷西中学校
- 長泉町立北小学校
- 裾野市立東小学校
- 沼津市立門池小学校
- 御殿場市立富士岡中学校
- 富士市立富士川第二小中一貫校松野学園中学部
- 富士宮市立上野小学校

保護者同士がつながり合い、家庭の教育力向上を目指した家庭教育学級に

下田市立朝日小学校 教頭 高橋 綾子

1 はじめに

朝日小学校は下田市の南に位置し、学区には、吉佐美大浜、多々戸浜、入田浜、舞磯浜、碁石が浜、田牛という美しい浜や海水浴場があり、一年中サーフィン等を楽しむ観光客が訪れる地域にある。全校児童は88名という小規模校ながらも、地域の教育力が高く、保護者をはじめ地域の方々に支えてもらいながら、さまざまな学校行事やPTA活動に取り組んでいる。

このように美しい海や温かい地域の方々に囲まれている朝日小学校ではあるが、海拔4mしかないため津波浸水域に指定されている。南海トラフ地震や東海地震に備え、『自分の命は、自分で守る』ために、様々な想定を考えた避難訓練はもとより発達段階に応じた防災講座の設定やジュニア防災士の資格取得の推進、児童主体の防災集会、防災食の試食などを行い、児童の防災意識の向上を図っている。また、災害時は保護者同士のつながりが重要である。保護者のつながりをさらに深めていくためにPTA活動を大切にしている。



上級生が下級生に着方を教える

2 活動のねらい

本校では、PTA活動の一つとして1年生の保護者を対象に家庭教育学級を開校している。毎年いくつかの園から児童が集まり入学しているが年々各園からの人数も少なくなり、親子共に不安感を抱く原因となっている。そのため、入学生の保護者同士のつながりを作ることや、学校や地域に関心をもち親子で小学校生活に安心して臨めるようにすることを家庭教育学級の第一の目的としている。また、各家庭のあり方が多様化する中、家庭教育学級を通して家庭の教育力の向上も目指している。活動内容については、年度初めに家庭教育学級長・副学級長と吟味し計画を立て、学級長を中心に実践した。

3 活動の内容

(1) 保護者同士のつながりを作るために

① 親子で作って楽しもう ～ハーバリウム体験～



ハーバリウムの材料選びをする親子
今年度の入学生は12名である。少ない人数だからこそ、これからの小学校生活を互いに協力し合ってよりよく過ごしていくためにも、子ども同士だけでなく親同士のつながりも作っておく必要がある。そこで、第1回目の家庭教育学級は、地域の講師を招聘して親子でハーバリウム作りを体験することとした。講師は民生児童委員もされているため、顔見知りになっておくことは、保護者の安心感にもつながる。制作活動は、親子ペアで座り、和やかな雰囲気の中で行われた。子どもを介して保護者同士が挨拶し合う姿も見られた。また、数名ではあるが父親の参加もあったため、保護者の輪が広がった活動となった。余裕をもった時間設定をしたため、出来上がった作品を見合っ

② 焼き芋大会 ～焼き芋作りに協力～

学級長を中心に協力を呼びかけ、1年生児童が生活科で育てたさつまいもを焼き芋にする活動を行った。保護者は子どもたちが洗った芋を包んだり、火の番をしたり、声を掛け合って手際よく焼き芋作りに取り組んでいた。1回目のハーバリウム体験よりも保護者同士や保護者と子どもたちとの会話はずみ、時折笑い声も聞こえる雰囲気からもつながりが深まっている様子がうかがえた。親子で秋の味覚を楽しめる活動となった。



焼きあがったさつまいもを頼張る子供たち

(2) 家庭の教育力向上を目指して

① 日頃の子育ての悩みを語ろう ～スクールカウンセラーと語る会～



カウンセラーと語っている様子

本校には毎月1～2回来校するスクールカウンセラーがいる。学校便り等で来校日や相談受付の案内をしているが相談依頼はほとんどない。保護者は、学校生活での不安や悩み等があっても、忙しい日常の中でわざわざ相談することもないと遠慮しがちである。そこでもっと気軽に相談できる場として、参観日に合わせてスクールカウンセラーに来校日を調整し、日頃の子育ての悩みなどざっばらんに語る会を設けた。会では、生活習慣・家庭学習の様子・家庭内ルールなど些細な心配ごとを話題に挙げながら、同じ悩みをもつ保護者同士が意見交換したり、それに対してスクールカウンセラーが効果的な対処法についてアドバイスしたりした。同じ悩みを持つ保護者がいることを知り、具体的なアドバイスをもらうことで、安心感や今後の子育てへの意欲につながった。後日カウンセラーに相談依頼をしたり、生活習慣や睡眠時間を見直したりする保護者の姿が見られ、家庭の教育力向上が図られた会となった。

② 逃げ地図作りに挑戦しよう ～防災講座～

本校では様々な防災教育に取り組んでおり、児童の防災に対する意識や知識は向上している。しかし、保護者の意識は児童ほど高くなく、地域防災訓練への参加率にも現れている。そこで、地域の防災講師を招いて、『逃げ地図作り』を行うこととした。

逃げ地図とは、地震津波が起こった時、最寄りの避難場所まで何分で行けるかということの色分けして地図に示したものである。この地図を作っていく過程で朝日地区の避難場所・経路・避難にかかる時間を確認することができる。園での車による送迎とは違い、徒歩で小学校に通うようになったため、通学途中での災害を心配する声もある。この地図作りを通して、自分の家からだけでなく、学童や友達の家にいる時、通学途中などどこへ避難できるのか保護者に知ってもらい、子どもとの情報共有や地域防災訓練への参加意欲向上を目指した。逃げ地図作りを実際に行った保護者からは、以下のような感想が寄せられた。



講師と逃げ地図をもとに話し合う保護者

- ・自分の家や学校からの避難場所は把握していたが、登下校や友人宅へ外出している時の避難を考えていなかった。子どもと共有し、一緒に歩いてみたいと思う。
- ・実際地図を見ながら考えて色塗りをする中で分かったことや、再発見することがあった。
- ・子どもたちに自分の家の近くの避難場所以外にも出かけた時に行ける避難場所を知ってもらいたいと思った。
- ・地域にこのような講師の方がいて、感謝している。
- ・自宅周辺のみならず、学童中の避難場所についても家族で話し合いをしようと思う。

完成した地図を元に、子どもたちがより安全に避難する方法について講師と熱心に意見交換する姿も見られた。講座後に実際に子どもと避難場所を確認に行く、家庭で話題にする、地域防災訓練に参加するなど、保護者の防災意識を高めるよい機会となった。

4 成果と課題

年間を通した家庭教育学級の活動が、9年間の義務教育の入り口にいる児童と保護者が関わり合ったり、地域に関心をもったりするきっかけとなった。新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、感染対策を講じながら同じ目的に向かって共に活動することは結束力や親近感をもたらすことを改めて感じた。今年度できたこのつながりは、これから先の学校生活を共によりよく過ごそうとする基盤となっていくのではないと思われる。しかし、中には活動に参加したくても、仕事や家事の都合がつかず参加できないという声もあった。また、学級長・副学級長の負担感も考えなくてはならない。地域人材を生かすことで役員の負担感を減らすとともに、地域とのつながりもできる良さがある。今後は、地域人材の活用も積極的に考えていきたい。少子化の影響を受け、年々入学生は減少している。人数が少ないからこそ、つながり合いが大切となる。保護者とともに一人でも多くの学級生が気軽に参加できるような魅力的な取組を工夫し、つながりを作ることを目指していきたい。

学校教育活動への協力

～PTA活動の取組を通して～

伊豆の国市立大仁中学校 PTA会長 塩谷和樹

1 はじめに

本校の学区は、大仁、三福、田京をはじめとする狩野川流域の平野部、立花、星和等の山裾に開発された住宅地、下畑、田中山、浮橋、さらには長者ヶ原、亀石峠に至る山間部までの広範囲にわたっています。高台にある学校は、真正面に富士山を望み、春には桜が咲き誇る、地域の名所の一つとなっています。

本校PTA役員組織は、会長1名、副会長2名（1名は書記を兼ねる）、会計1名と評議委員20名の合計24名で構成されています。4つの専門部（研修・環境整備・広報・校外指導）にて活動を進めています。



大仁中学校から望む富士山

2 活動のねらい

本校の学校教育目標「夢を拓く」、重点目標「自分で考え、判断・決定できる生徒」「自分の成長を実感できる生徒」「自分の可能性を伸ばせる生徒」を意識し、学校と思いを共有しながら活動しています。学校行事への協力や環境整備作業等、PTAとしてできるかかわりを検討しながら取り組んでいます。

3 活動の内容

(1) タブレット体験研修会

一人一台端末の導入により、学校における授業の様子が大きく変化しました。また、生徒が端末を各家庭に持ち帰り、課題等を行うこともあります。保護者として、生徒たちが実際にどのように端末を活用しているのか関心をもち、知っておく必要があると考え、「タブレット体験研修会」を催しました。これまで研修推進部で行ってきたバザーは、時代の流れとコロナ禍で、継続が難しくなっていたところでの新たな試みとなりました。

参加した保護者からは、「タブレットをどのように活用しているか知ることができてよかった」「ぜひ他の皆さんにも体験してみしてほしい」「子供たちにとって魅力的な学習ツールなので、どんどん活用して使いこなせるようになってほしい」といった感想がたくさん聞かれました。



ICT担当教員による説明



さまざまな機能を使い、大人も夢中に！

(2) 親子環境整備作業

山の斜面を多く抱えた広い校地をもつ本校は、初夏から秋にかけてかなり草が生い茂ります。PTAの協力なくしては校地内の環境を整えることができません。昨年度からは熱中症&感染症対策の観点から、草刈り機担当は早朝6～8時、草を集めて運ぶ担当は8～10時までというようにして時間を区切り、安全面への配慮をしながら「親子環境整備作業」を実施しています。

昨年度は、感染へのリスクが深刻だったため8月の実施は見送り10月に実施。今年度は、感染対策をとって草刈り

が最も必要となる8月に実施することができました。状況に応じて実施時期や回数を工夫しながら、生徒たちが気持ちよく学校生活を送ることができるよう、環境整備にかかわっています。



大量に刈った草を集めるのは大変！



軽トラックも大活躍

(3) あいさつ運動

コロナ禍となり、これまで校外指導部が行ってきた地域の祭典パトロールやあいさつ運動が縮小されました。しかし、こうした時期だからこそ、あらためてあいさつの意義を考え、生徒たちの健やかな成長のため、PTAとして「あいさつ運動」を再企画しました。

1学級を出席番号で2グループに分けて当番の日を割り振りました。夏休み明けから、生徒の登校時間に合わせて正門付近に立ち、互いにあいさつを交わすことで、あたたかい交流が生まれています。



あいさつが響く登校時の様子

4 成果と課題

学校教育へどのように協力できるのか、これまでの活動を基本ベースとして試行錯誤しながら取り組んできました。PTA活動が「子供たちの健やかな成長を支えるための活動」であることに変わりはありません。従来通りに行くことに固執せず、時代に見合った活動方法も視野に入れ、これまでのような活動を続けることが容易ではない今、「今できること」を役員の皆さん、先生方と話し合い、状況に合わせて変化や工夫を加え、新しい形を模索しながら活動をしてきました。

近年、コロナ禍によりPTA活動への改善を図りつつ、学校・地域・保護者が連携を取りながら、子供たちのために何ができるのかを考え、形にしていけるような活動を続けていきたいと思えます。

最後に、PTAの組織は、生徒数の減少、それに伴う会員数の減少により、さまざまな問題を抱えているのも事実です。コロナ禍を、組織の在り方や活動内容を再考するよい機会が訪れたと捉え、保護者と先生方で持続可能な組織づくりをめざし、子供たちの教育環境を充実させるためにサポートしていきたいと思えます。

コロナ禍におけるPTA活動

三島市立中郷西中学校 教頭 横山 寛

1 はじめに

本校は三島市の南部に位置し、南東は函南町と、南西は沼津市と、西は駿東郡清水町と境を接しており、かつての農耕地は工業用地や住宅地へと変わりつつあり、校区を国道136号線バイパスが縦断しています。校訓は「鍛える 伸びる 助け合う」とし、学校教育目標は「豊かな感性を礎に、確かな学力と健康な心身を磨き、伸びゆく生徒を育成する」を掲げています。

現在、生徒数は325名で、2つの小学校区（中郷小・長伏小）より通っています。そのため、小学校との連携も非常にとりやすく、合同引き取り訓練や中学校で行われていたバザーに小学生ボランティアの参加、小学校おやじの会主催の防災イベントに中学生ボランティア参加など小中連携の行事も行いやすい環境となっています。



2 活動のねらい

コロナ禍で、この3年間本来のイベントの多くが中止となりましたが、本年は少しずつ活動が再開しています。それでも、本校、最大のイベントであるバザーは3年連続見送りになってしまいました。また、PTA役員の方の負担軽減も考えていく必要があります。そこで、コロナ禍でもできる活動を行い、PTA役員の方の負担軽減も考え、工夫しました。

3 活動の内容

(1) 制服の追加について

学校の制服追加に向けて、PTA役員の方の代表の方が制服検討委員会に参加し、保護者の立場から制服について様々な意見をいただきました。また、PTAとしてLGBTQや多様性、自己肯定感について考える場を設定するために講演会を企画・開催しました。タレントで俳優の西原さつきさんに講演会を依頼し、コロナ禍で実施するために、生徒に貸与されているタブレット端末を利用してオンラインで行いました。



学校祭文化の部で新制服を披露

(2) 制服のリサイクルについて

本校、最大のイベントであるバザーが実施できなかったため、その代替りとして制服のリサイクルを実施しました。事前に回収した制服に番号をつけ、授業参観の折に会場に展示しておいた制服の中で、購入を希望するものの番号をタブレット端末で後日申請するという方法をとりました。そのため、当日の密を避けて実施することができました。

(3) PTA主催の体育館の椅子の保護キャップづけボランティアについて

会場準備の負担軽減のため、体育館の椅子の保護キャップづけボランティアを企画しました。ボランティア募集の際は、とても多くの生徒が参加を希望し、3年生の希望者とPTAのボランティアの方々で行いました。椅子のキャップづけだけでなく、体育館の清掃や制服リサイクルの準備も同時に行うことができました。

(4) 廃品回収について

6月と10月の年2回廃品回収を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策として事前にアルミ缶と牛乳パックは、きれいに水洗いの上、袋の口をしっかりとしばって出していただくよう周知し、当日の学校での作業については、参加者を限定して行いました。この収益をもとに、熱中症対策として製氷機を購入していただきました。



制服リサイクル準備の様子



奉仕作業の様子

4 成果と今後の課題

コロナ禍の中、通年行事はあまり行うことはできませんでしたが、その中でも出来ることを実行可能な方法で行うことができました。恒例の奉仕作業や廃品回収、制服リサイクルなど縮小傾向ですが、実施することができました。また、追加活動としてPTA主催のオンライン講演会、体育館の椅子の保護キャップづけボランティアなどできる範囲で、できることを行ってきました。これらの活動を行うにあたり、タブレットなど新しいデバイスを使用して新しい形で企画実行できることも経験しました。オンライン講演会では、場所を選ばず参加でき、会場やスタッフの準備の必要はありません。また、見逃し配信も可能なので見直したり、後日都合のつく時間に視聴できたりするなどのメリットがありました。一方で、会場に行くより情報の認知度が落ちるなどのデメリットもありました。

徐々に通常の学校生活を取り戻すと思いますが、これらの、試みを総括し、コロナ前に戻るのではなく新しい形でPTA活動を行っていきたいです。

自分にできることをみんなとともに

長泉町立北小学校 PTA会長 石坂 かわり

1 はじめに

長泉町立北小学校は、駿東郡長泉町の北部に位置し、昨年開校50周年を迎えた小学校です。坂を登った途中にあります。坂下には城山神社、坂を登った先には静岡県立ガンセンターがあります。近隣も校内も自然豊かな環境に囲まれ、通学路にはハナミズキ、正門には桜の木、校内にはつつじ等季節の花々も自慢の1つです。

令和4年度は児童数850名、学級数30学級、教職員72名の大規模校です。少子化が叫ばれる中、マンションや宅地がまだまだ増えていて、静岡県のファルマバレープロジェクトの発展と共に成長している地域です。

南駿地区PTA連絡協議会は、駿東郡長泉町に隣接する駿東郡清水町との2町10校で構成されており、今年度は本校が会長校を務めております。

2 活動のねらい

新型コロナウイルス感染症の流行から3年。縮小、中止傾向にあるPTA活動を単にやらない決断をするのではなく、今できる事は何かを考え、それに向けて「やってみよう！」から始まり「出来た！」に繋げることを大切にしようと考えました。そのために一番大切にすることは「やるなら楽しく」ということです。ただでさえ、PTA活動にネガティブな声や社会の風潮が増えてきていることを肌で感じていました。自分自身もこれまではあまり前向きにはとらえていませんでした。だからこそ、「みんなが楽しく活動する」ことを基本理念に掲げ1年間活動して参りました。

3 活動の内容

今年度は、年度初めの総会はC-ラーニングというアプリを通しての書面開催としました。表決もアンケートシステムで実施しました。各部の活動もこのアプリを活用し、PTA活動のデジタル化が進んでいったのが、今年度の特徴です。昨年度まではあまり活動できていなかった専門部の活動も少しずつ始めていきました。

【校外指導部】

校外指導部は登下校旗振り見守り活動を実施しました。年間を通して、各地区で当番を決め、ほぼ全校が通過する交差点で旗振りを行い、安全を見守りました。しかし、地区によって危険箇所が増えていき、改善を求める地区があり、会議を重ね改善を図りました。6年生の交通安全リーダーが主催した「交通安全を語る会」に参加し、意見交換を行いました。さらに、地区ごとに児童が調べた危険箇所を確認し、細かく丁寧にまとめたお便りを配信し、全PTAで共通理解することに力を入れました。



【環境部】

環境部では校内環境整備に力を入れ、「校内草取り」を2回、「親子奉仕作業」「校内落ち葉清掃」と銘打ち、美化活動を全4回実施しました。また、校内消毒も定期的に行いました。いずれもたくさんのボランティアが参加し、児童の環境をより良くしようと熱心に活動してくれました。



【広報部】

PTA新聞「さつき」PTA広報誌「しろやま」の発行が主な仕事です。今年度から「さつき」に関してはCラーニングによる配信という形に変更しました。今まで印刷所に頼っていた部分が大きかったため、初めての試みで苦勞が大きかったものの、SDGsの観点から少しでも紙の使用を減らしたいという思いを共有できたことが大きな成果ととらえています。「しろやま」に関しても少しずつ改善を図っていきたいと思います。



【家庭教育学級】

昨年度は一度も実施できなかったのですが、今年度は全5回を計画し、開催しました。内1回は感染症拡大により中止を余儀なくされましたが、授業参観日や奉仕作業日などの保護者が学校に来る日に設定し、参加しやすい環境を整えることを意識しました。「子育て座談会」「お笑いライブ(中止)」「折れない心を育てるいのちの授業」「キャンドル作り」「自然と遊びのワークショップ/腸活食育」いずれの会も20名程度の参加者があり、充実した時間を過ごすことができました。



【総務部】

総務部では、3年間開催出来ていなかった「親子ナイトツアー」を実施しました。「ナイトツアー」は伝統のある大人気のPTA行事です。長年、北小学校の為に子どもが卒業後も関わりを持っていただいている「しろやま倶楽部」の方々のご協力、若い教職員の皆様、PTA役員の皆様で一体となり計画から実行まで出来た事は大きな喜びとなりました。参加人数も予想をはるかに上回る人数で、体育館での待合が長蛇の列になるほど。役員の配置や、時間調整等今後の課題も見えました。



【南駿地区 PTA 連絡協議会】

南駿地区PTA連絡協議会では、一昨年、昨年と中止していた教育講演会を復活させることができました。「笑いあり、涙ありの2本立て～(折れない心を育てる いのちの授業)(よしもと芸人が教える子どもとの幸せライフ)」を開催。会を開催するにあたり、清水町小中学校、長泉町小中学校のPTA会長の皆様と学校の垣根を越えて準備、リハーサル、本番と同じ目的に向けて楽しく活動する事が出来ました。



4 成果と今後の課題

「今できる事は何か」「どうすれば出来るのか」「やるなら楽しく」を念頭に様々なPTA活動を進めて参りました。校長先生を始め、教頭先生、主幹先生との話し合いや考え方の共有が一番大切だった様に思えます。学校側のYES, NOがはっきりしていたので、取りまとめを行う私としてはとても活動しやすかったです。コロナ禍以前のPTA活動も工夫次第で行える事、「今年は数多くの活動を行っていきます」と声を上げればそれに対するレスポンスが良く、役員さん達もとても協力的で、みなさんに支えられて活動ができました。

まだまだ続く新型コロナウイルス感染症。対策は勿論のこと、Withコロナを念頭に、子ども達が安心して過ごせる家庭生活、お友達と楽しめる学校生活を送れる様にPTA会員同士の交流が今後も増えていくことを願い、PTA活動が楽しく、無理なく、行われていくことが大切だと思います。

地域のイベントでカフェ店員体験

裾野市東地区 三校連携委員会（裾野東中 向田小 裾野東小）

裾野市立東小学校 PTA会長 萩原 克哉

1 はじめに

裾野市東地区は雄大な富士山を望む裾野市の南東部に位置し、市内でも比較的世帯数の多い地区で、中学校1校と小学校2校にて形成されています。この地区内3校PTA役員で、活動のための情報交換や連携を目的とした三校連携委員会を運営し、年に3回の運営委員会、あいさつ運動や毎年11月に向田小グラウンドを会場に開催されている東地区コミュニティ祭への出店を行っています。

あいさつ運動は「あいさつで 光る笑顔と 心の輪」をスローガンに毎月第1月曜日の登校時にPTA役員が路上に立ち、子供たちとあいさつを交わしています。東地区コミュニティ祭は市と東地区区長会主催のイベントで、敬老会や消防団、ボーイスカウトなど地区内の様々な団体が出店、小学校の金管クラブや鼓笛隊、保育園の子供たちによる鼓笛隊の演奏が披露され、幅広い年齢層の人々が集まり賑やかに開催されているイベントです。

2 活動のねらい

地域との係わりが重要視される今、このように地域の方々が多く参加するイベントにPTAとして係わることにより、PTA役員だけでなく子供たちが地区のことをより深く知ることができたらと考え毎年出店しています

3 活動の内容

東地区コミュニティ祭では、これまで私たちは小麦まんじゅうの製造販売を行っていました。コロナ禍の影響により3年ぶりの開催となった今年度。今回のコミュニティ祭出店にあたり検討課題になったのは、例年通り小麦まんじゅうを販売するか。単年で変わっていくPTA役員では出店のノウハウが上手く引き継がれていなかったことと、小麦まんじゅう作りは向田小家庭科室で行っていたため、多くの人が集まり過密状態になってしまうことから、感染リスクを避けるため別の何かを考えなければなりませんでした。

代替案を検討していく中で、大人主導ではなく子供たち主体で実施できることが大切だと考え、今回のイベントを通して、働くことや物を売ることでお代をいただくということを体験できる場を提供したいという結論に至りました。具体的に出てきた案が飲み物販売、アクセサリー作製販売でした。

飲み物販売については、市販のものをただ売るだけでは面白くないので、レモネードを作ってみようとのアイデアから試作&試飲会を行い、材料の混合比を何通りか試し絶妙な比率を発見し、満場一致で決定となりました。アクセサリーに関しては、当日来場者に製作体験をしてもらう案やキットにして販売する案も出ましたが、完成品販売となりました。PTA役員に手伝ってもらいながら、子供たちがメインで製作に取り組み、可愛いらしいアクセサリーができました。

当日の天候や来場者数など不安の中で迎えたコミュニティ祭当日ですが、幸い天候にも恵まれ多くの地域住民が来場し、「上手くいくだろうか?」と緊張の中スタート。開始当初は人影もまばらでしたが、子供たちが自主的に呼び込みを行い、徐々に行列ができていき30分後には大行列。超多



当日の様子

忙な状態に！そんな中でも楽しそうに作業している子供たちの姿が印象的でした。事前の想定通りに上手くいかない場面もあり、注文→ドリンク作り→精算までの一連の作業工程において、時間が経つとともに段々と生産が追いつかなくなりました。そのような状況下で子供たちから「在庫をストックしていこう」といったアイデアが出てきて、ある程度の在庫をストックしたおかげで、忙しくなっても引き渡しまでがスムーズになりました。子供たちなりに滞りなく商品を提供するためにはどうしたら良いのか考えた結果だと思えます。

4 成果と今後の課題

終了後の子供たちは、達成感に満ちた笑顔を浮かべていて、それがどこか遅しくも見えました。感想を聞くと「面白かった」「忙しかったけど楽しかった」「またやりたい」など前向きな答えが多く、新鮮な気持ちで楽しく作業に取り組む姿は、大人から見ても刺激を受ける立派な成長した姿でした。今回のイベントを通じ、子供たちが日ごろなかなかできない体験の場を提供できたことで今後の方向性を考える一助となれば幸いです。

コロナ禍により出店内容をこれまでとは大きく変えなければならないことがきっかけとなり、参加する目的から考えることで取り組むことの意味を考えることができました。次年度出店の際は、単純に前年度の内容を踏襲せず、目的をしっかりと見据えた計画を進めてほしいと思えます



作業の様子



作製したアクセサリ

創立70周年へ向けたPTAの活動

沼津市立門池小学校 PTA会長 蓮池 光 一

1. はじめに

沼津市立門池小学校は、沼津市の北東部に位置しており、教職員62名、児童数は870名、学級数は30学級と沼津市で最も規模が大きい小学校です。門池公園の南に位置し、国道1号線や414号線など、幹線道路に囲まれた地域でもあります。黄瀬川から牧堰用水により水田に水を供給し、かつては田畑が多くありましたが、近年は区画整備や農耕地が住宅地に代わり人口が増加している地域にあります。

昭和41年に開校し、昨年度開校50周年を迎えました。コロナ禍ではありましたが、タイムカプセルの開封、記念行事の開催、記念誌・記念品の作成等を50周年委員会と委員長（元PTA会長）中心に、PTA常任も手伝いながら行事を開催しました。

更に20年後へタイムカプセルを作成し、20年後の未来への希望を託し、子どもたちにも記憶に残る活動を多く実施することができました。



50周年記念行事

2. 活動のねらい

今年度、門池小学校PTAは、「創立70周年を目指し、子どもたちの笑顔のために楽しい思い出づくり」をスローガンに活動をスタートしました。しかし、この3年間ほとんどの活動ができていなかったため常任理事の中にも多くの不安がありました。引き継いでいるが状況や詳細が分かっていないという課題もありました。そこで、今までの活動を知らないからこそ、新しい行事や組織を創っていけるのではと可能性も感じることができました。

3. 活動の内容

まず、総会で提案したのは、今までの6部体制を4部に縮小することでした。これは、昨年度から何度も話し合いを重ね、近年の保護者の環境が変化中、組織を縮小し、部の統合を進めながら活動を継続することを考えてのことです。（実際の活動は、令和5年度からになります。）

PTA活動が始まると、3年間開催していなかった活動が再開しました。門池コミュニティが主催する「門池まつり」でのPTAの企画・運営、子供会単位で行うドッジボール大会の開催、そしてどんど焼きの実施です。また、連絡や引き継ぎの効率化を図るために、アプリの導入をしました。その中でも、3つの活動について紹介します。

① 門池まつり

門池まつりは、子どもたちの健全育成を目指し、門池のコミュニティを中心に、各町内会、地域の企業等が参加

する、門池地区の大きなお祭りになります。例年は、門池小中PTAで、割り箸鉄砲やペットボトルボーリングなど、子どもたちが楽しめる活動を行っていました。しかし、昨年度



門池まつりでのPTAのテント

はコロナ禍で開催するためには密を防ぐ必要があり、どうするかをPTA常任で話し合いました。感染のリスクを少なくするための方法を考えたり、様々なアイデアを出し合ったりしましたが、結局感染拡大のため中止になってしまいました。

今年度は、感染症対策を行いながら開催する運びになりました。子どもたちが密になるのを防ぐために、門池公園を使った謎解きウォークラリーを企画しました。これは、門池の畔や公園でチェックポイントにテントを張り、そこでは中学生のボランティアにチェックカードのはんこ押しをお願いしました。すべてのチェックをもらった参加者は、くじ引きをしてもらい、1等は、某アイスクリームショップのカードなどのプレゼントを用意しました。当日は、たくさん子どもたちが参加してくれ、笑顔で過ごす姿を多く見る事ができました。また、手伝ってくれた中学生が小さい子どもたちに優しく接する姿に、小中PTAが連携する意義を感じました。

② LINE WORKS の導入

昨年度までの常任理事同士の連絡方法は、個人のLINEで行っていました。特に問題を感じることはありませんでしたが、過去のやり取りを見ることができなかつたり、データの共有が難しかったりする点が課題になっていました。そこで本年度は、副会長の提案でLINE WORKSの導入を決めました。このアプリは、PTA等の団体が基本的に無料で使用できるものです。

特に便利なのは、今までのやり取りが、後からグループに入った人でも見ることができること。データのフォルダ等があり、簡単に管理・閲覧できることです。また、個人のLINEでやり取りするよりも、安全に運用できるという面があります。

現在、本年度の常任のトークルームだけでなく、どんど焼きのトークルームも作成し、各部門ごとのやり取りも行うことができるため、PTAの情報がすぐに確認できるようになりました。



③ どんど焼き

今年度、1番のビッグイベントはどんど焼きでした。3年間開催していなかったため、どのように開催するかも含めて検討しました。話し合いの結果、新しく責任者をたて、プロジェクトチームを作り開催について検討を重ねました。地域への回覧文書を作成したり、確認したりする作業もLINE WORKSで行うことができたため、皆で集合する回数も少なくなり、それぞれの分担作業を随時報告することができました。

また、各部の部員さんへの協力をお願いするだけでなく、GoogleFormsでボランティアの募集を行いました。実際に応募してくれた方は、4名でしたがボランティアの方に参加していただける可能性を感じる事ができました。

前日の準備では、専門部員さんとボランティアの皆さんで、竹取りや櫓づくり、お飾りの金属外しなど、3年ぶりの準備を協力して行うことができました。

当日は、多くの方々に参加していただくことができ、無事に終了することができました。



どんど焼きの光景

4. 成果と課題

3年ぶりに多くの行事を開催することができ、様々な活動をPTA常任理事で経験することができました。また、LINE WORKSの活用により、集まって話し合う等の時間を短縮することができました。ボランティア制を試すことができたため、今後のPTAボランティアの運営についても、主体的にPTA活動に参加できる方が増えてほしいと感じました。

課題としては、PTA役員を地域から選出している選出方法については方法等も含めて検討したいと感じています。特に主体的にボランティアに参加してくださる方を少しずつでもふやしていくことで、皆が進んで参加するPTAの組織になってほしいです。門池小学校70周年に、皆が納得して協力できるPTA組織であるよう、PTAの在り方について話し合いを進めて参ります。

学校・家庭・地域の連携をめざすPTA活動

御殿場市立富士岡中学校 教頭 伊藤 賢一

1. はじめに

御殿場市立富士岡中学校は、生徒数534人、学級数20学級の大規模な学校です。裾野市との境にあり、校区は南北に広いため、御殿場線を利用して電車通学をしている生徒もいます。学校のすぐわきを黄瀬川が流れるなど自然が豊かな上に、伝統文化や観光地など地域の資源にあふれています。

また令和2年度より2年間、御殿場市教育委員会の指定を受け、コミュニティ・スクールを軸にした教育活動の研究を進めてきました。PTA活動においても、地域とのつながりを一層強化していくことが必要です。

2 活動のねらい

富士岡中学校の学校教育目標である「心豊かで活力のある生徒の育成」の実現に向け、「いきいき はきはき きびきび もくもく」をPTA活動のスローガンとして実践を進めています。また、魅力に富むPTA活動を推進し、家庭と学校、地域の連携を強化し、地域においても指導的役割を果たすPTAに成長することを目指しています。

3 活動の内容

(1) 学校支援ボランティア「チーム富士岡」

本校では、PTAや地域の人材を活用した学校支援ボランティア「チーム富士岡」が組織されています。学校の要請に応じて支援を行ったり、ボランティアの都合に応じて随時活動したりしています。「チーム富士岡」の活動について一部紹介します。

○読み聞かせボランティア

学校の要請に応じ、月に一度ボランティアが各教室を訪問し、生徒たちに本の読み聞かせを行います。教室に設置されているICT機器を活用し、大型のモニターに絵本を映し出すなど、工夫した取り組みを実践しました。



読み聞かせの様子

○トイレ清掃、生け花ボランティア

ボランティアの都合に応じて随時活動しています。特に新型コロナウイルス感染症の影響により、生徒によるトイレ清掃が実施できなかった時期は、多くの保護者がトイレをはじめ校舎内の美化活動に取り組みました。また、生け花を校舎内に飾ることで、明るい雰囲気を作りました。

○学習支援ボランティア

毎週水曜日の放課後、基礎学力の定着に向けて生徒が自由に参加できる学習会を開催しています。社会、数学、理科を得意とするボランティアが生徒の苦手とする問題をていねいに指導しました。生徒は気軽に参加でき、教えてもらうことで自信を高め、学習意欲の向上につながりました。



生け花とメッセージ

(2) PTA奉仕作業

6月と9月に校地内の美化活動の取り組みとして、PTA奉仕作業を行いました。生徒・保護者・教員が早朝から集まり、草刈りを中心に取り組みました。富士岡中学校は緑が多く大変な作業でしたが、地域の方々も加わってくださり、見違えるほどきれいになりました。



奉仕作業の様子



熟議の様子

(3) 熟議

コミュニティ・スクールの取り組みの一つとして、生徒・保護者・学校・地域が富士岡中学校（富士岡地区）をより良くするために協議する場「熟議」を6月と9月に開催しました。ゴミ問題などの富士岡地区の課題について話し合い、様々な立場から解決策を考えました。ここでの話し合いを受け、生徒はPTA登校指導の日に合わせ、登校中にゴミ拾い活動を行いました。

4 成果と今後の課題

感染症対策を講じながら、学校・家庭・地域が連携したPTA活動を徐々に進めています。保護者や地域の方々が日頃から学校を訪れ支えてくれたり、生徒とともに意見を交換し合ったりすることにより、生徒は自分の住む郷土をより身近に感じ、大切にしていこうとする心を育んでいきます。PTAや地域人材による学校支援はたいへん貴重なものだと感じます。今後もPTAと地域がより一層の連携を深め、持続可能な「学校・家庭・地域が連携したPTA活動」が実現するよう模索していきたいと思えます。

子どもたちの為に出来る事はなにか。笑顔ある学校生活を送ってもらう為に。

富士市立富士川第二小中一貫校 松野学園

中学部PTA会長 佐野由宜

〇はじめに

本校は富士市の西側の富士川近くの自然豊かな所にあります、小中一貫校です。

学校目標であります、教師、子ども保護者、地域と共に、(1)9年間を通して学びあう授業をつくる。(2)自己肯定感を高め、他者と関わり合いながら豊かな人間性を育む。(3)命の大切さを常に意識し、心身の健康・安全を管理する(4)縦の接続・横の連携を深め、生涯を通じて学び続ける人となる。

以上を目標に少子化の流れの中、本年度は小中一貫校として始まり、地域と共に学校づくりを進める雰囲気の良い学校です。

コロナ感染が収束していない中、その中でもwithコロナで少しずつ動き始めた世の中。子ども達も少しずつ行事へ動きだした中、手探りで始まった今年度。世の中が少しずつ動き出した中で、PTAもそれに合わせるように動き出していく形をとりました。ただ、コロナ流行前にはなかなか戻れない中で、どういった動きをしていけば良いのか、そのような中で今年度がスタートしました。

〇活動の内容

- ・登校指導
- ・ノーマディアweek
- ・壁新聞
- ・コサージュづくり
- ・松翔祭(運動会)
- ・奉仕作業(プール周りの清掃)
- ・PTA新聞「わだち」の発行
- ・PTA講演会(保護者向け)
- ・読書DAY

以上の活動は当初、人数を大目に配置していましたが、効率化や活動内容自体の運びから、人数の縮小であったり、再配置をしたりしました。人数を掛けずに行うことで保護者、役員や理事の負担を出来るだけ少なく済むように心掛けました。

その中でも、

- ・PTA講演会はヨガ要素も入れストレッチが出来、好評でした。
- ・コサージュづくりは卒業式で付ける卒業生へ。
- ・PTA新聞のわだちは保護者向けのPTA新聞でPTAの活動内容を報告。

新校舎設立の為、PTA活動内容を見直す良い機会との意識から、今まで小学校と連携を取りたくてもなかなか時間的な融通が利かず、保留状態にあったものを動かすきっかけになったりと有意義に働く場面にも遭遇しました。互いにそれぞれで行っていた活動も同じ敷地内で小中一貫校なら尚更、一緒に出来る事はしても良いのではないかと。そんな所からお互いに協力し合い、PTA活動を推し進めていく形に徐々にですが推し進めていくようになりました。相伴い、以前よりも理事、役員より意見が活発に出る雰囲気に。協力して活動を行うことで今まで見えなかった取り組み方で行える新しい発見もありました。昨年度と同じよう流れでも、少しずつ動き始めた世の中に合わせるように今年度は今年度でPTA活動を行っても良いのではないかとという動きです。

小学校と連携を取りながら活動が出来る強みがありました。新校舎(一部の中学生は旧校舎)でのスタートは気分一新し、例えば、運動会では小学の部、中学の部と分けて午前、午後のそれぞれで開催し、異年齢で協力して進行していくプログラムの導入。保護者も分散することで我が子を見るのが以前よりも見やすくなったメリット。年齢が近い事

で協力できる幅が広がったようにも思えました。

話し合いをする中で以前のPTA活動よりも縮小した部分もありますが、効率化した部分が多かったので、より充実した内容の活動になったと思います。

普段から声が聞かれた、とにかく役員・理事の普段の活動の負担軽減を含め、見直した形は良かったと自負しております。

○成果と課題

新校舎建設の為、制限をされた範囲の中で出来る事は、不自由もあり、反対に考えて物事進める力になった事と思います。この部分はなかなか体験しあえない中で、貴重な体験であったでしょう。今後には必ず、生きてくるはずで、全校区的な少子化で松野地区も子ども達の人数が少なくなっている中で、PTAと地域で協力し合っていく事が今後もますます増えてくると思います。これから、小学部と中学部で協力し合う活動が今年度より少しずつ増えていくと思います。手探りの状態がまだまだあると思いますが、出来る事を出来る範囲で行っていく事が望ましいと思います。地域との連携・結びつきを大事に助け合っていく、そんな活動を行っていかれたらと感じます。

学校応援団、として今できるPTA活動を

富士宮市立上野小学校 PTA会長 平野良治

1. はじめに

上野小学校は富士宮市北部に位置し、南北に流れる芝川と潤井川に挟まれ、のどかな田園風景が広がり、雄大な富士山を臨める素晴らしい場所にあります。

本校の学区には、縄文中期の千居遺跡や、鎌倉時代に創建された日蓮正宗総本山大石寺があり、その境内には国の重要文化財に指定されている五重塔や、県の有形文化財の三門・御影堂を有するなど、歴史的にも古くから伝統文化を築いてきた地域です。また、本校の前身である芙蓉館（明治7年創立）は、市の指定文化財である下条妙蓮寺の庫裡を借りて創られました。

現在の児童数は218名で、平成21年7月に完成した現校舎にて、木のぬくもりと香りに包まれながら、みな毎日健やかに生活しています。

2. 活動のねらい

本校には「あいぼう制度」という他に誇れる伝統があります。これは、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生の各児童がそれぞれ2人ペアとなり、1年を通してさまざまな活動と一緒にやり、絆を深める縦のつながりです。あいぼう制度により、下級生は上級生に学び、憧れ、上級生は下級生の面倒を見る中に多くの経験を得て、互いに成長していきます。

しかし、現下のコロナ禍によって活動は大幅に減少し、さまざまな行事の中止や縮小・分断を余儀なくされたことは周知のとおりです。子供達は、さまざまな「ふれあい」を通して大きく成長しますから、限られた中でもふれあいの機会をつくれたらと思います、現状に即した新しいやり方を模索しながらPTA活動を進めました。

3. 活動の内容

〈PTA行事の開催〉

PTAの恒例行事「上野小夏祭り」は、「毎日がんばる子供達へPTAからのご褒美、という気持ちで、子供達にとって楽しい時間となるよう企画運営してきました。これまでは、遊びのほかに飲食を扱う委員会（ブース）もありましたが、今年は「上野小ふれあいまつり」と名称を変更し、携わる保護者をできるだけ少数にして、くじ引き・輪投げ・フォトショット・おかし釣り・スタンプラリー・アスレチックを新たに企画し実施しました。

ただし、全校児童が一斉に動けば三密を避けられません。そこで、児童を6つのグループに分け、それぞれ決められたブースから時間差でスタートしました。また、子供達は勝手気ままに回るのではなく、あいぼう同士を基調とした班別行動という制限を設けました。



上野小ふれあいまつりの様子

〈委員会の活動〉

各委員会では、従来の活動を見直し、規模や方法を工夫して活動しました。たとえば、屋外で接触のほとんどない

古紙回収は実施可能と判断し、例年どおり行いましたが、奉仕作業は、野外の活動でも保護者全員の参加は人数過多になると判断し、担当の委員会のみで行いました。

また、広報紙の作成では、行事の中止によって例年掲載していた記事に空きができてしまいました。そこで、皆でアイデアを出し合い、児童アンケートを実施するな



PTA 古紙回収



広報紙「風のささやき」

どの工夫を試みました。その努力の甲斐あって、県の広報紙コンクールで2年連続入賞することができました。

〈読み聞かせボランティア〉

読み聞かせボランティアでは、マスクで読み手の声が届きにくい、絵本のそばまで集まることができない、などといった問題点が出てきました。しかし、そのおかげで、発音や滑舌・声のボリュームなど読み手の技術面が向上し、子供達に良い絵本を届けたいという思いも大きく膨らみました。読み聞かせで使用した絵本は、関連本（作者あるいは内容が類するもの）と一緒に教室に置かせてもらうので、後で手に取ってじっくり味わうことができます。また、読み聞かせ中止の期間も、先生が代わりに読んでくださるなど、子供達と本とのふれあいを続けることができました。



朝の読み聞かせ

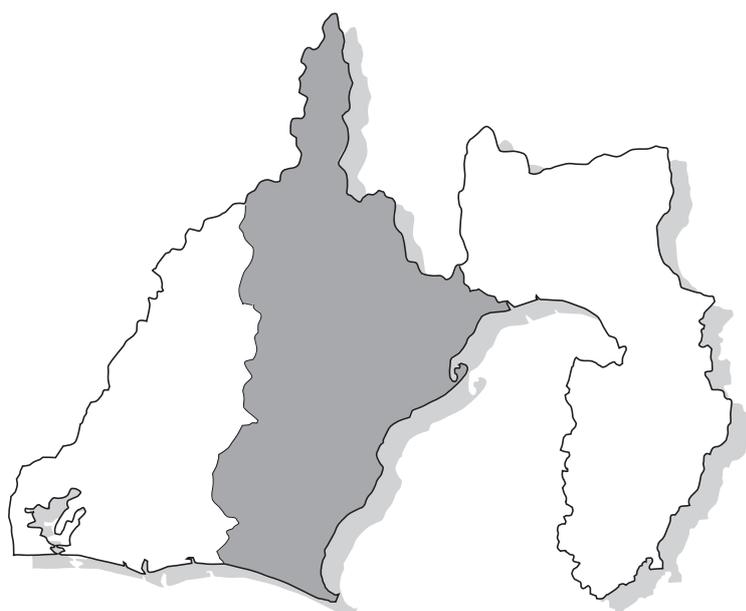
4. 成果と今後の課題

何事も「できない」と決めてしまうのは簡単です。しかし、同じ「できない」でも、最初から匙を投げた「できない」と、ギリギリまで試行錯誤した先の「できない」とは雲泥の差です。役員一同知恵を出し合い、どうしたらできるのかを必死に考え、できる範囲の中でできるだけのことはやれたと思います。

子供達の健全育成のために、またよりよい学校運営を進めるために、先生・保護者・地域の三方よし。それが学校応援団です。PTAの委員会や保護者ボランティア、交通安全指導や清掃・地域サポートの方々など、本当に大勢の方が学校応援団として子供達のために活動してくれました。

今やPTAの必要性を問われる時代です。「今までやっていたから」は通用しません。どうしてやっているのか、なぜそうなっているのかを紐解き、皆で認識を共有しつつ、常に新鮮なPTA活動を模索していく必要があります。

また、本校は来年4月に創立150周年を迎えます。源遠く流れ長き伝統に思いを馳せ、いよいよ充実したPTA活動を期していきたいと思えます。



〈実践事例提供：中部地区〉

- 静岡市立服織小学校
- 焼津市立大村中学校
- 藤枝市立青島北中学校
- 島田市立六合東小学校
- 吉田町立中央小学校

つながり育む笑顔

～地域×子育て世代＝地域の発展～

静岡市立服織小学校 P T A顧問 西村 賢

1 はじめに

静岡市立服織小学校は国道362号線を中心に藁科川と山に囲まれた自然豊かで神社仏閣も多く歴史深い地域にあり、空高くせせらぎの音と鳥の声が梢に弾む中、子どもたちは、健やかに育まれています。前進である共励舎、共励学校の名のもと「すすんで励み、ともに励ましあう」を建学の精神とし2年後には、創立150周年を迎える伝統ある学校です。田んぼなど農地の宅地化が進み少子化といえども子育て世代が多く移住しオリジナル住民との融合で、いまだに児童数956名、世帯数727世帯と静岡一大きな学校を保っています。このマンモス校と地域とをつなげ、子どもたちを共に育み地域の発展へとつなげる懸け橋としてP T Aの役割は、大きいものと感じます。



校舎の風景

2 活動のねらい

子育て世代が安心して住める、子どもたちを安心して育てられる地域で、学校であると認識してもらえ、それがP T A活動の参加、地域活動の参加につながる事だと思います。またそれが優しく易しい（簡単な）活動、必然的な活動であるようにすることが重要だと思います。

地域で行われる活動・会議への積極参加は、もちろんですがP T Aの活動にも地域の協力・参加を積極的にお願ひ・依頼するようにする。

P T A中心の目線から地域の中のP T Aというとらえ方で考え活動していくことで、「地域の発展」へつなげることを目的とします

3 活動の内容

学区責任者会・地区社協・学区健全育成会などの会議及び行事などに参加し、P T Aとしての活動内容の周知、依頼など精力的に行う。

・年2回の資源回収の協力依頼

資源の提供、地域回覧、回収場所の設置などの依頼、地域内に回収場所を数か所設けさせていただくことで円滑な回収をさせていただいています。

・服織小学校P T A最大行事である「あそばざあや」の地域参加・協力依頼

結果として今年度も新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み開催することはできませんでしたが準備段階では、各地域団体の参加協力依頼をさせていただきました。

過去参加協力して頂いた時の内容として、竹トンボや竹馬など竹細工を使った遊び、紙飛行機製作、手作りゲーム、藁科地区伝統工芸品おかんじゃけなど地域の方々が得意とするブースを出展していただきました。特におじいちゃん・おばあちゃんなどの年配の方々の経験や技術は、今まさに失われつつありますのでしっかりと若い世代に伝承していけるように、こういったイベントを活用してもらえたらと思います。

子どもたち、教職員、保護者、地域が交流する場であり普段の学校生活では見せない子どもたちの姿を発見できるイベ



あそばざあやの様子

ントです。

・**地域活動である見守り隊への感謝とさらなるお願い**

特に下校時間などに合わせて巡視してくれるボランティアですが最近成り手が少ないのが現状です。子どもたちがトラブルに巻き込まれないための抑止力になるため不可欠な存在ですので継続して呼びかけ依頼をしていく必要があります。

・**交通指導委員ボランティアへの感謝と新しいボランティアの発掘依頼**

現在通学路における各危険箇所において交通指導委員ボランティアの方2名と保護者とで旗振りを毎日実施していますが学区が広範囲であることと子育て世代は、同時に働き世代でもあるため登校時間に旗振りをするのは、負担が多く回数を減らすために旗振りの箇所を減らさざるをえない状況です。

安定的に子どもたちの安全を確保していくため、また、子育て世代が暮らしやすい学区にするため強く要望させていただいています。

・**2年後に控える創立150周年の地域参加・協力の依頼**

まだ記念事業実行委員会も立ち上げていない状況ですが、この歴史と伝統ある小学校の記念事業を地域の多くの方々に関わっていただき、服織に長く住み故郷として愛着を持つ方々の経験と新しく故郷として生活していく方々の未来を融合させ改めて地域のコミュニティを形成していただきたいと思いをします。

上記が主な地域への協力依頼事項です。。

4 成果と今後の課題

本年度も引き続きコロナ禍ということもあり思ったような活動はなかなかできなく地域へ依頼した成果もなかなかできませんが、地域と共に子どもたちの育成をしていけるようPTAとして地域に継続的に働きかけていきたいと思いをします。

地域、学校、保護者のいろいろなつながりを大切にして子どもたちも保護者も先生も地域の方々も皆笑顔になれるように、前述でPTA中心の目線から地域の中のPTAというとらえ方で考えるとしましたが行動としては、我々PTAが中心となり、つなげていく団体として地域の方々、地域の各団体、学校、教職員、保護者など活動を通して意見交換し相互関係をしっかり保つことで子どもたちがこの地域で健全に成長し笑顔を育めると思いをします。

地域に育てられた子どもたち、地域に助けられた子育て世代たちは、後に必ず地域貢献をしてくれ住みやすい地域の発展へとつなげてくれると思いをします。

持続可能なPTA活動を目指して

～在り方から考える組織改革～

焼津市立大村中学校 PTA会長 星野倫弘

1 はじめに

大村中学校は、水産業が盛んな焼津市の北部にあって、学区内には焼津さかなセンターや複数の観光施設があることから、週末には県外からも多くの観光客が訪れる、市内で最も賑わいのある地域に位置しています。大村地域には焼津駅、東名高速道路焼津IC、国道150号もあって、交通の利便性の良い地域であることに加え、区画整理によって新しい住宅地も増えたことで、焼津市内では若い世代が多く居住している地域となっています。学区は2つの小学校区（焼津西小、焼津東小）で構成されており、現在の生徒数は410人で、部活動の選択肢も豊富かつ盛んに活動しています。

また、PTAとは別に、保護者を中心にしつつ、卒業生や地域の特別会員によって組織されている学校後援会という組織があり、部活動や教育活動を地域ぐるみで支援してくださっています。

2 活動のねらい

PTAが組織されて以来、執行部を中心にさまざまな規約や組織が話し合われ、練り上げられて今日に至っています。しかし、子育てをめぐる社会環境は確実に変化しています。共働きの比率は高まり、PTA活動に参加するには仕事を休まなければならないという家庭が多い現状のなかでも、PTA活動の公平性を確保しつつ活性化するために、「すべての保護者が同じ量の仕事を、平等に、毎年同じことを同じように活動する」という“原則”のようなものが構築されていました。平等で、個々の負担も少ない効率的な状態にみえますが、多くの保護者から聞こえるのは、充実感よりも負担感（義務感、強制感、不公平感）が強いというのが現実でした。そこで、まずはPTA活動の一つ一つを見直し、現状の課題に対応しているのか、必要性があるのかを考え、「子供たちの教育環境を支える」という目的を達成するために、まずは負担感を極力取り除いて、保護者の役割を「運営」から「参加」にシフトする組織体制に改編していくことを目指しています。

3 活動内容

(1) 地区の再編

組織再編のスタート地点は平成31年度に遡ります。小学校子供会の地区割りを主体にして学区を11地区に分け、地区ごとに3年間分3名（1年あたり1名×3年間）の役員選出を行っていたのですが、各地区の生徒数にバラつきが生じていました。区画整理によって住民が増えた地区は30人を超える生徒数がある反面、昔から居住している人の多い地区は10人にも満たない状態でした。そこで、小学校からも居住状況を情報提供していただき、区割りを11地区から6地区に変更することにより、数年後まで地区ごとの会員数が均衡となるよう改編しました。

(2) 学級役員の廃止

令和2年には、学級役員を廃止しました。過去にはクラスごとに保護者の意見を取りまとめたり、離職する先生に餞別品を贈る手配をしたりすることもあったようですが、現在の役割は「学級懇談会の司会」しかありませんでした。学級役員を選出することで保護者のPTA参加を促す目的もあったと思いますが、すでに役割を終えたと判断し、負担感を軽減することを最優先に考えて廃止することとしました。期せずしてコロナ禍に突入してしまい、学級懇談会そのものが開催できなくなってしまいましたので、成果はまだ見えません。

(3) 特別補導員・健全育成部の廃止

令和3年度には、特別補導員の選出を停止しました。夏休み期間中に、当番制で学区内を夜間巡視する役割を担っていたのですが、直近数年間の巡回記録を調べても、補導はおろか、声掛けの実績もありませんでした。これまで特別補導員の皆様にご尽力いただいたおかげで風紀が改善した素晴らしい成果であり、すでに補導員の役割は完了したと判断しました。特別補導員は、3年任期となっているため、令和3年度から選出を停止し、現員が任期を満了する令和4年度末で廃止となります。

また、特別補導員と一緒に巡視にあっていた地区役員の健全育成部も、令和5年度から廃止することとなりました。

(4) 全専門部の廃止と執行部の強化

組織改編の最終段階として、令和5年度より地区長を除くすべての地区役員の選出を停止しました。これにより、令和6年度までに残っている広報文化部（広報紙の発行、配布）、保体厚生部（環境整備活動の取りまとめ）を廃止していきます。ただし、地区の取りまとめ役である「地区長」だけは選出することとし、今後予定されているコミュニティスクール導入に備えるほか、学校後援会活動のサポートをお願いする予定です。

また、PTA活動は必要に応じて本部事業として実施していくため、副会長を増員（8名体制→12名体制）して執行部を強化しつつ、活動のたびにサポートメンバーを募集する方式に転換することとしました。

4 成果と今後の課題

これまで、PTA活動はなくてはならないもので、その活動を盛り上げることが執行部（会長、三役など）の役割のように引き継がれてきました。他校の活動事例を拝見すると、とても積極的に活動されている学校があることも事実で、本来目指すべきはそうした姿なのかもしれません。

ただ、今回の組織改編により大幅な負担軽減を行いました。PTA活動そのものは一つも削減していません。安易に「全部やめてしまえ」ではなく、必要性を再確認し、その運営体制を変更したのです。各種メディアでPTAの負担感や不公平感を煽るような記事が掲載されたり、時には評論家が不要論を唱えたりするのを見聞きすることも増えてきており、近隣の小中学校では退会者も出始めていると伺っています。そうした状況になる前に、一つの選択肢として組織改編を実行しました。まだ路半ばではあるので成果はわかりませんが、今後保護者の参加率を高めていけるよう、取り組んでいきたいと思っています。

最後に、やりたくない人が強制されないのと同様に、意欲のある人が力を発揮できない組織であってはならないと思います。今回の改編によって、“断れないからやらされていた人”が減り、“意欲的にやりたい人”が執行部に集まってくれることを期待しています。

「あいさつ」からはじまる自分づくり絆づくり

～支え合う学校・高め合う学校～

藤枝市立青島北中学校 P T A 会長 牧 田 恵李華

1 はじめに

青島北中学校は1985年4月に藤枝市内9番目の中学校として駿河台の地に開校しました。開校以来「自ら求め成し遂げる生徒の育成」を目標として、じきゅうせいすい自求成遂の言葉を胸に、生徒が主体、主役となって「授業」「あいさつ」「清掃」の3つを柱に活動しています。校内の至る所で自求成遂という言葉を目にすることができ、この自求成遂の姿をより実現しやすい学びの場となるよう「支え合う学校・高め合う学校」という合言葉が令和4年度から新しく掲げられました。合唱活動にも力を入れており、毎年開催されるコーラスフェスティバル（通称コラフェ）では合唱推進委員会を中心に生徒一人一人が熱心に練習に励み、今年度は当日YouTubeの生配信でその成果を届けてくれました。



校舎遠景



保護者の参加のあいさつ運動

柱の1つである「清掃」では無言清掃の文化があり、全校生徒が清掃時の10分間、それぞれの持ち場で黙々と清掃に取り組んでいます。またもう1つの柱である「あいさつ」に関する活動では、子供たちと共に、全保護者参加型の朝のあいさつ運動を行っており、小学校とのあいさつ交流の日も設けられています。新型コロナウイルスの影響でマスク着用が日常となり、互いに表情がわかりにくくなってしまった中でも、子供たちが発してくれる「おはようございます」という声は今年度も温かいものでした。今回は、この本校のあいさつ運動について紹介させていただきたいと思えます。

2 活動のねらい

あいさつを通じて子供たちの健全育成を図るために、教職員と保護者が連携して子供たちを見守り、指導していくと取り組んでいます。参観日などとは別に保護者が学校や子供たちの様子を見ることができる良い機会にもなっていると思います。また、小学校とのあいさつ交流の場は豊かな人間関係を築くとともに小中一貫教育にも繋がっています。

3 活動の内容

毎年5月～翌年2月にかけて活動しています。生徒は生徒会、生活専門委員会を中心に、保護者はP T Aの生活指導委員会を中心に作成された当番表をもとに、毎朝順番で校門や雨の日には屋根のある体育館入口に立ってあいさつを交わしています。小学校とのあいさつ交流はお互いがそれぞれの学校に出向き、共にあいさつの声かけを行っています。朝の忙しい時間帯でもある為、保護者も無理のない範囲で臨機応変に活動しています。

4 成果と今後の課題

引き続き感染対策を施しながら無事活動することができました。朝のあいさつ運動は普段の子供たちの様子を間近でみるができます。また、中学校の3年間という短い時間で我が子以外の生徒と関わることが少ない中での貴重な交流の場だとも思います。「おはようございます」の一言ですが、複雑な思いを抱えることも多くなる思春期の子供たちをより多くの大人で見守ることができ、ちょっとした心身の変化にも気づいてあげられるきっかけになるのではないのでしょうか。小学校とのあいさつ交流ではあいさつを通じてお互いを知り繋がりをつくること

で、これから入学してくる小学生にとっての安心材料にもなっていると思います。タイトルの『「あいさつ」からはじまる自分づくり絆づくり』という言葉は青島地区にある小中5校共通のキャッチフレーズになっています。あいさつを柱に家庭・学校・地域が一つになって、地域に愛着をもち、未来を生き抜く力のある子ども達を育んでいこう等の願いが込められています。あいさつ運動は多くの学校で実施されており、本校でも日々あたりまえの光景になっていますが、今後も大切に温かな声のかけ合いを続けていきたいと思っています。



中学生と小学生のあいさつ交流の様子

子どもを夢中にさせる「共育」環境づくり

島田市立六合東小学校 校長 滝下 祥 央

1 はじめに

教育は、「共に育てる」と書く「共育」でもであると常々考えています。子どもは学校だけでなく、家庭や地域など多くの環境の中で学び育ちます。その環境には、当然、地域のもの・ことやそこに住む人々が入ります。この「共育」の環境づくりが、PTA活動やコミュニティ・スクールの本質なのではないでしょうか。

しかし、コロナ禍を契機に、すっかりVUCA（Volatility：変動性・Uncertainty：不確実性・Complexity：複雑性・Ambiguity：曖昧性の頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味した言葉）の時代に突入したことを実感します。ここ数年、地球レベルで地震や水害など大きな災害が頻発し、様々な事件も起きています。不審者による子どもの被害が増え、地域で子どもだけで遊ぶことが難しい環境にもなってしまいました。そこに加えてコロナ禍です。「3密」を避けるために大勢で遊ぶことが制限され、子どもたち同士で社会性を学ぶ機会がさらに減ってしまったように思います。こうした状況になってしまうことは想像もできませんでした。今の時代の子どもたちの育ちを保障する様々な「共育」の環境づくりが、より難しい状況になっていると考えられます。

2 活動のねらい

そんな時代や未来を生きる子どもを育てる大人としては、子どもにどんな能力を身に付けさせたらよいか大いに気になるところです。現在、社会では技術革新も頻繁に起こり、これまでの常識や行動様式をアップデートしなければならなくなってきています。中でも、最も注目されるのがAIの台頭です。AIが得意とするのは、ビッグデータを基に学習し、適切な答えを見つけ出すことです。ですから、既存の分野においてはAIと競ってもかきません。となると、これから求められるのは、主体性を発揮しながら意味を深く理解し、自らの体験に基づいて想像力を働かせて、未知の世界をより深くイメージできる力を付けることです。

そのためにも、幼少時代には自然や地域の環境の中で様々な体験をする中で、思い切り遊ぶことや夢中になって取り組むことが大切となります。子どもたちが大きくなって主体的に動くためには、自発的に動くことを十分経験している必要があります。子どもの頃は大人の言う通りに動くことばかりを求められ、大きくなったら突然自分で動けと言われても、子どもは戸惑うばかりでしょう。つまり、自発性や集中力を身に付けるには、子ども時代に思いっきり遊ぶことや夢中になって取り組むことが必要です。

また、この経験によって、言葉や概念を実体験に結びつけて理解できるようになり、言語能力や感性も磨かれます。さらには、体験の中で仲間とかかわることで人間関係が豊富になり、人の気持ちに対する共感性や洞察力が身に付き、それが人間関係調整能力にもつながっていくということもあります。かつての子どもたちが自然に経験していたようなことが、実はとても意味のあることだったと思います。

このことをPTA本部役員の方々を中心に共有させてもらいました。そこで、ここ数年続くPTA活動の自粛や中止を乗り越え、感染症への安全対策を施しながら、子どもたちを夢中にさせる「共育」環境づくりをねらいとし、「東小まつり」を行うことにしました。



「2022 ROKUTO QUEST」のポスター

3 活動の内容

コロナ禍以前の「東小まつり」は、飲食を伴うショッピングが中心だったと聞いています。続くコロナ禍において、飲食は難しいものがあります。また、ショッピングは実社会の中で経験ができることから、その他の企画で子どもたちを夢中させることはできないか会長やPTA本部役員の方々を中心に知恵を絞っていただきました。そこで、考え出さ

れたのが「2022 ROKUTO QUEST」(前頁ポスターと下記参照)です。

(1) クエストの内容と各部の役割分担

- アトラクション1【すごろくクエスト～段ボール迷路～】:本部
- アトラクション2【射的でスナイパークエスト】:保健体育部
- アトラクション3【集中して型抜きクエスト】:文化広報部
- アトラクション4【空飛ぶ紙飛行機クエスト】:環境整備部
- アトラクション5【くじ引きで景品ゲット】:健全育成部・地区長
- 総合進行【受付・案内・記録】:学年委員



すごろくクエスト



スナイパークエスト



型抜きクエスト



紙飛行機クエスト

(2) 目的の共有

「子どもが冒険者として夢中になる体験をすることができる」「役員同士または役員と教職員の親睦を図る」という目的を、本部が中心となって運営委員会および企画書等で伝えました。また、教頭によるホームページや通知での広報も効果が大きかったと思います。さらに、当日は大人が黒子に徹する意味で、役員・教職員ともに作成したマスクと黒を基調とした服を身に付けて、さらに意識の醸成を図りました。

(3) 感染症対策

- ・受付で健康観察カードを提出し、日々の体調確認をする。
- ・非接触体温計を活用し体温を計測するとともにアルコール消毒を行う。
- ・アトラクションを2学年ずつの3交代制とし、人数制限をして密を避ける。
- ・受付からクエストやくじ引きの終了まで一方通行とし接触を制限するとともに、各会場で消毒・換気を徹底する。



4 成果と今後の課題

コロナ禍対応や学習指導要領の全面実施に向けた教育改革への取組により教職員の参加に制限がある中、PTA役員の方々には、企画・準備・運営と労を惜しまずに取り組んでいただいたことに頭が下がる思いでいっぱいです。子どもたちに夢中になってもらいながら、「活動のねらい」に記したような力を身に付けさせようとしているのですから、私たち大人こそが、その力の発揮に向けて、主体的に積極果敢に挑み続けている姿を見せなければならぬと切に思います。その姿を示していただいたことが、今回の活動の大きな成果であると思います。

課題としては、来年度以降この活動をどのように持続可能な事業にしていくかが上げられますが、本校の保護者の方々のお陰で、その環境は整っていると感じています。子どもたちは、未来の地域の担い手です。将来、遠く離れる子ども、地域は心の拠り所になります。改めて、PTA活動は、「共育」の環境づくりを考える上で大きな力だと感じています。

新しいPTAの姿を求めて

～コロナ禍だからこそ、新しいPTA活動の創造を～

吉田町立中央小学校 教頭 原田 正裕

1 はじめに

本校は、大井川の河口に位置し、かつてはうなぎの養殖が盛んな地域でした。実際に昭和44年に撮られた学校の航空写真では、養鰻池の中に学校が浮かんでいるような状況でした。現在は、大井川の恵みである豊富な地下水を活用する工場が、学区の東側に建ち並んでいます。

一方で、学校は、海岸線から約2キロメートルに位置し、学区の半分近くが海岸線から1km未満の地区となっています。そのため、児童は減少の傾向にあり、ここ5年ほどで児童数が130人ほど減少しています。そのため、PTA活動の整理・縮小をすることが多くありました。

こうした状況の中で、「なくす」「減らす」だけでなく、「創造するPTA活動」に取り組みたいという思いが役員さんを中心に広がっていきました。そして、「創造するPTA活動」として、「PTA親子活動“中庭の池 水ぬき 大作戦”」という活動を行うこととなりました。

2 活動のねらい

「PTA親子活動」のねらいは、

- 1 子供と保護者がふれあい、楽しむ活動を企画・運営することで、創造的なPTA活動への転換を図ること。
- 2 親子で楽しむ活動を通じて、保護者同士の横のつながりをつくること。

としました。

本校のPTAは、自ら進んで活動を生み出し、学校にも協力的でありました。例えば、PTA奉仕活動が実施できなくなると、本部役員を中心に役員OBが自主的に声をかけ合い、校内整備をしてくださることもありました。

しかし、PTA会員数の減少と新型コロナウイルス感染症対応のために、PTA活動の「縮小」「削減」が続いてしまいました。そうした中で、PTA役員の中から「もっとPTA活動を楽しむ創造的な取組ができないだろうか」という思いが膨らんでいったのです。

さらに、「せっかくのPTA活動なのだから、子供と保護者がふれあい、保護者間の横のつながりをつくっていききたい」という思いが強まりました。そこで、上記のねらいのもと「PTA親子活動」を実施することになりました。

3 活動の内容

(1) 学校運営協議会から生まれた活動

令和4年度に入り、本校でも本格的に学校運営協議会が実施されました。ここで、「中庭の池」が話題に上りました。「自分たちの子供の頃には、もっと池がきれいで、休み時間になると遊びに行ったものだ」「池をきれいにすれば、今の子供たちも、中庭をもっと楽しめるのではないか」という声が聞かれました。そこで、PTA会長が、「中庭の池をきれいにする活動をPTA親子活動にできないか」と考え役員会で提案をしてくださいました。

(2) PTA親子活動「中庭の池 水ぬき 大作戦」

活動は「中庭の池 水ぬき 大作戦」と名付けられました。具体的には

- ア 池の水を全部抜く。
- イ 池の中にいる生き物（鯉や金魚、カメ）を一旦別の水槽に移し、数を数える。
- ウ 池の中の泥などを掻き出し、池をきれいにする。
- エ 池の中央のモニュメントに色を塗る。

という活動が行われることになりました。かなり大がかりな活動になったため、PTA役員だけでなく、OBや保護者の方などの協力を得て、活動が進められました。

ア 池の水を全部抜く

まず、最初に池の水を抜くことから作業は始まりました。前日の午後から、排水用ポンプによって、池の水が徐々に抜かれていきました。この作業には、地元で養鰻業を営む保護者の方が、ポンプなどを用意してくださいました。

イ 池の中にいる生き物を水槽に移し、数を数える

親子活動当日は、池の生き物を別の水槽に移す作業からはじまりました。参加した親子で、大きな鯉を捕まえて水槽に移していきました。鯉は大きなものでは60cmを超えるものも少なくなく、子供だけでは、持ち上がらないので、親子で協力して水槽に移したり、役員さんの助けを借りて、水槽に移したりしていきました。こうした中で、保護者の横のつながりが自然と生まれていきました。また、低・中学年の子供は、小魚を捕まえて、親子で数を数えたり、魚の種類を確かめたりしました。



PTA役員が作成した応募用チラシ



すくった魚の種類を親子で調べる様子



PTA役員が高圧洗浄機で泥を流す様子

ウ 池の中の泥などを掻き出し、池をきれいにする

魚の移動が終わった頃には、池の水もほとんどが抜けた状態になりました。そこで、池の底にたまっていた泥などを子供たちがデッキブラシなどで集め、大人がスコップでバケツに入れるという作業が行われました。子供も保護者も徐々に池の床面が見えてくると、うれしそうな笑顔を浮かべ、作業に没頭しました。そして、仕上げにPTA役員が高圧洗浄機で、泥を流し、池の床面がきれいになると、参加した全員が達成感を感じることができました。

エ 池のモニュメントに色を塗る

中庭の池には、モニュメント「地球儀を掲げた子供の彫像」があります。しかし、色のはげ、藻が生えているような状態でした。これを、役員さんが高圧洗浄機などで、きれいにしておいてくださいました。親子活動当日、子供たちを中心にこのモニュメントに色塗りを行いました。

保護者は、色塗りをする子供たちを見守りながら互いに小学生時代の思い出話に花を咲かせていました。

コロナにより延期になり10月22日(土)、23日(日)の2日間で行った「中庭の池 水ぬき 大作戦」はこのように行われました。役員は、自分たちで活動を生み出し、計画を立て、準備をし、実現をした達成感を感じていたようでした。



モニュメントに色を塗る様子

4 成果と今後の課題

「中庭の池 水ぬき 大作戦」に参加した保護者の83.4%が大満足、16.6%が満足、肯定合計100%という結果になり、親子活動が参加者にとって満足度の高い活動になったと言えます。また、「今回のイベントも沢山の事柄について考慮し、準備していただいたことで、私達親にとっても、子供にとっても、とても楽しい思い出になり、感謝しています。子供たちの事をしっかりと考えてくださっている役員さんなのだ」と、感銘を受けました。今後の活動を主人も私も、子供たちも楽しみにしています。」という感想もいただきました。

PTA会員数の減少や感染症対策で縮小傾向のPTA活動ですが、新しいPTAの姿と活動を創造することができました。こうした取組が、楽しく参加したくなるPTA活動につながっていくことと思います。



〈実践事例提供：西部地区〉

- 森町立森小学校
- 磐田市立豊田南中学校
- 袋井市立袋井東小学校
- 湖西市立東小学校
- 浜松市立伊佐見小学校

新しい森小 コロナ禍のPTA活動

森町立森小学校 PTA会長 鈴木宏和

1. はじめに

森町は、古くから栄え、文化的遺産も多く残っている地域です。一方、季節ごとに色彩の変わる情緒豊かな山に囲まれ、町の中心には清らかな水音を響かせる三倉川・吉川からつながる太田川がゆったりと流れています。

こうした自然に恵まれた土地であることや、新東名高速道路の森・掛川インターチェンジ、遠州森町スマートインターチェンジがあることから、観光地や工業団地としても栄えています。

学区は、令和3年度に三倉小学校・天方小学校と統合したことにより、町の中心部から北部山間地まで広がる広大な学区となりました。保護者の職業も多種多様ですが、子育てに熱心で、学校教育に協力的な家庭が多いです。

児童数は、減少傾向にあります。地域の方々の熱い思いやつながりに支えられて、どの子どもも真剣に学習に取り組んでいます。



2. 活動のねらい

PTAの活動方針を「地域の人・もの・自然を生かしたPTA活動を通して心身ともに健康な子供を育てよう」とし、以下の4項目を実践目標に掲げて活動を行っています。

- ・あいさつを通じて、家庭と地域が一体となる教育環境を構築する。
- ・地域の歴史や自然を生かし、親子が共に学び合える活動をする。
- ・地域の教育力を生かし、学校教育の試みを支援する活動をする。
- ・子供たちによりよい環境をつくるボランティア活動に取り組む。



オンラインによるPTA総会

3. 活動の内容

(1) あいさつ運動

「きらきらあいさつ」を森小の自慢として、地区ごとに設定した日にあいさつ運動を行っています。子供たちの元気なあいさつを引き出すために、保護者が手本となるあいさつを心掛けて実践しています。

(2) 交通安全運動

24の地区ごとに、校外安全部が計画・立案し、朝のあいさつ運動と合わせて、交通安全指導を実施しています。年度始めには、通学路の危険箇所点検を行っています。

(3) PTA広報誌「森小PTAだより」発行

教養部が作成し、年2回発行しています。令和2年度までは、見開きA3サイズで作成していましたが、記事の内容を精選し、昨年度よりA4サイズ（両面印刷）に変更しました。役員の負担軽減と見やすい紙面の両立を図ることができました。

(4) 愛校活動

環境部の推進により、年3回の愛校活動を計画しています。統合した昨年度より、放課後子供教室で利用している旧天方小学校の草取り、草刈りを天方地区保護者と4～6年生児童で行いました。森小学校では、9月に1～4年生保護者が運動場の草取り・草刈りを、2月に5・6年生保護者と6年生児童が窓拭き、扇風機掃除、防塵材散布を例年



旧天方小での愛校活動



森小愛校活動

行っていましたが、昨年度と今年度の9月は、コロナ対策で実施することができませんでした。

(5) 資源回収

地区ごとに年2回程度実施しています。広大な学区のため、地区の実情に合わせた方法で行っています。統合前の森小学校の各地区は、地区委員を中心に回収日を設定し、森小学校の常設コンテナに運搬します。

三倉地区(旧三倉小学校区)は、年2回、期間を決めてコンテナを地域に設置し、地域の方に自由にに入れてもらう方法をとっています。

天方地区(旧天方小学校区)は、年2回、決めた日にコンテナを設置し、回収作業をしています。今年で2年目になりますが、今年度はコンテナの設置場所を変え、効率よく回収できるように工夫をしました。

今年度の実践をもとに、より効率的な方法を検討していきたいと思います。

(6) 中学校区保幼小中一貫教育研究会の取組 「ノーメディアデー」

森中学校区の保育園・幼稚園・小学校・中学校で進めている中学校区一貫教育研究の共通実践項目の一つとして、ノーメディアデーの取組を行っています。中学校の定期テストの時期に合わせて年間4回設定し、メディアに触れる時間を減らしたり、メディアとのつきあい方を考えたりする機会としています。

方法は各家庭で考え、工夫した取り組みをしています。メディアに触れない時間を決める「ときだけコース」や一日メディアに触れない「まるまるコース」、使うメディアを限定する「これだけコース」等、家庭の実態に合った方法で取り組んでいます。

実施してみて、「テレビを見ないことで家族の会話が増え、楽しい時間を過ごすことがきた。」「日頃、見ていなくても何となくテレビがついている時があるので、生活を見直したい。」等の感想が寄せられています。

(7) 学校保健委員会への参加

例年、9月に教養部が参加し、6年生児童と一緒に健康について考え、学ぶ場としています。スクールカウンセラーを講師に、人間関係づくりや互いの良さを見つける学習を行いました。昨年度に引き続き、今年度もコロナ対策でPTA役員の参加は無くなりました。

4. 成果と今後の課題

昨年度、三倉小、天方小、森小の3校が統合し、新しい森小がスタートしました。PTA活動の推進にあたっては、役員数、役員選出方法、活動内容、参加形態等について検討し、広くなった学区の地区ごとの実情に合わせ、無理なく効果的な活動になるよう試行錯誤を重ねています。また、様々な活動を推進するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策として、活動を中止したり、活動内容を変更したりするなどして柔軟に対応してきました。

統合、そしてコロナ対策と、「これまで通りのPTA活動継続」が難しい状態が続いています。これを今まで積み上げてきたものを見直す良い機会として捉え、昨年度からの活動と合わせて今年度の活動を振り返り、実践目標に向けて、さらに活動の精選・効率化を図っていききたいと思います。

未来へつながるPTA活動

～未来を感じられる日々を子どもたちに～

磐田市立豊田南中学校 教頭 杉田直樹

1. はじめに

天竜川下流の平地に位置する本校の学区は、浜松市に隣接する地域として住宅開発が進み、JR豊田町駅の設置もあり、都市化が急速に進んだ地域です。そのため、昭和60年4月に、磐田郡豊田中学校組合立豊田中学校より分離して、本校が開校しました。令和4年度は、開校して37年目を迎えました。生徒数は447名で、学年4～5クラスの中規模校です。

また、市政の在り方は「地域づくり協議会」を中心に進められ、学校教育も学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を軸に、地域の学校を前面に押し出し、教育課程においても、地域との連携を意識した活動を進めています。学区では、「井通・青城学府」として豊田南小学校、青城小学校との連携を密に取り、生徒の育成を図っています。登下校時には、地域の方々が交通安全指導を行ってくださるなど、子どもたちを温かく見守っていただき、大変ありがたく感じています。

子どもたちは、素直で明るく、何事にも真摯に取り組む姿勢を見せ、大変落ち着いた生活を送っています。その一方で、精神面の脆さや、主体性の希薄さを感じられることもあるため、自ら学び仲間と共にたくましく生き抜く力を育むことを目標に教育活動を行っています。



口の字型に建てられたユニークな校舎

2. 活動のねらい

本校PTA活動は、会則によると「生徒の福祉を増進するため、学校、家庭、社会の積極的な努力と協力を促す」ことを目的として行われています。「生徒の福祉」は分かり易く言い換えると「生徒の幸福」と解釈することができます。コロナ禍により、以前のようなPTA活動を行うことができなくなったことを新たな転換期と捉え、PTA会長や運営委員の意向の基、「子どもたちの未来へつながるPTA活動」をテーマに、無理のない範囲で、できることは何か、子どもたちの幸せな未来につながる学校生活を応援できるような活動を行うこととしました。減らせることは減らし、必要なことを最小限の労力で最大限の成果を得ることを目標に活動しています。

3. 活動の内容

本校PTA組織には、環境整備委員会、ふれあい委員会、広報委員会、健全育成委員会の4つの専門委員会があります。

(1) 環境整備委員会

主な活動は、資源回収、親子奉仕作業があり、これ以外にボランティアを募った奉仕作業があります。

年間3回の資源回収と、校地内の常設コンテナによる古紙・アルミ缶回収を行っています。年々単価が低くなり、収益金も大幅減となっていますが、生徒の教育活動を支える貴重な財源となっています。特に、常設コンテナへは、地域の方々から毎日のように古紙・アルミ缶が運び込まれ、子どもたちのために資源を活用してほしいという温かな思いが伝わり大変感謝しています。



常設コンテナ



親子奉仕作業

親子奉仕作業では、コロナ禍になる前までは、夏休み明けの最初の日曜日に、全学年参加で、校地内の草刈り、樹木剪定を行っていただいていた。ただ、新型コロナウイルス感染症や熱中症などの観点から活動を見直し、5月中旬の体育大会前に1学年のみで実施することに変更しました。その半面、9月には、やはり草刈りが必要となるため、野球部やソフトボール部の保護者会や、教職員、PTAのボランティアにより、環境整備を行っています。

(2) ふれあい委員会

年間6回のあいさつ運動と標語看板の設置を行っています。

あいさつ運動は、生徒の登校時に昇降口にて行っています。コロナ禍では、難しかった大勢の生徒への声掛けが、以前の様にできるようになってきたことを嬉しく思いながら、参加されているようでした。標語看板は、



あいさつ運動



標語看板の設置

生徒会と1年生の各学級が考えた「あいさつ」、「歌声」、「ボランティア」に関する標語を看板にしたものです。

(3) 広報委員会

広報委員会は、PTA新聞の発行を主な活動とし、年間2回PTA新聞を発行しています。学校行事の取材、撮影を意欲的に行い、レイアウトを工夫した素晴らしいPTA新聞を作成してくださっています。

(4) 健全育成委員会

健全育成委員会では、夏季夜間巡視と祭典巡視を主な活動としています。コロナ禍のため、ここ2年間は祭典巡視がありませんでしたが、今年度は祭典も行われ、巡視により子どもたちの安全を見守っていただきました。

(5) その他

令和2年度は、コロナ禍のため、PTA活動や、全校行事がほとんどできなかったの思いから、PTA役員の発案により、全校生徒の5年後の自分へ向けた手紙をタイムカプセルとして校地に埋藏しました。タイムカプセルを開封する時に初めて、当時の全校生徒が一同に集まることを楽しみにしています。



タイムカプセル埋藏



合唱コンクール

今年度は、これまで学校で開催していた合唱コンクールを新しくオープンした磐田市民文化会館「かたりあ」で行うこととなり、交通指導係や駐車場係、会場係をボランティアで保護者に行っていただくことにしました。PTA役員の方々も進んでボランティアに参加していただき、合唱コンクールは大成功で終わることができました。

4. 成果と今後の課題

これまでの活動を見直す中で、PTA活動の負担感を減らすことができましたと思います。また、保護者の方々子どもたちのためならばと、進んでボランティア活動に参加してくださったり、新しいアイデアを出していただいたりと、連携は今まで以上に深まったのではないかと思います。ただ、せっかく深まった連携も、卒業とともに消えてしまうので、PTA活動をコミュニティ・スクールの活動と連動させて、継続して子どもたちの応援団として力を貸していただけるような組織づくりをしていきたいと思っています。

コロナ禍が問う持続可能なPTA活動について

袋井市立袋井東小学校 PTA会長 足立 謙一郎

1. はじめに

袋井東小学校は、松並木が残る旧東海道沿いに位置する児童数252名の中規模校です。今年150周年を迎えた本校は、明治5年に開校した私塾「用行義塾」を祖とし、同12年に公立学校「刮目舎」と改称され、以来「刮目教育」が謳われてきました。刮目とは、中国古典・三国志演義に登場する、「男子、三日会わざれば刮目（かつもく）して見よ」の故事に由来します。人は大いに成長するものであるから、3日会わなかったら次に会う時にはよく目をこすって相手を見なさい、という意味で、現在でも学校経営方針や校歌の歌詞として受け継がれています。

学区には親子数世代にわたって本校の卒業生という家庭も多く、親世代にとどまらず祖父母世代も、スクールガードボランティアや校庭整備、放課後学習室といった活動を通じて、地域ぐるみで子どもたちを支援しています。



明治19年・校舎落成時の様子



現在の袋井東小学校

2. 活動のねらい

学校教育目標である、「自分で・自分から・思いやりをもって行動する子」の実現に向けて支援をおこなう事、および学校と家庭・地域のスムーズな連携を活動の目標としました。しかしながら、本年度も引き続き感染症への配慮から活動は抑制的にならざるを得ず、可能な範囲・規模で例年を踏襲するにとどまっています。こうした環境を前提とした新たな取り組みに至っていない点については、今後の課題と認識しています。

3. 活動の内容

以下に、本年度（12月時点まで）の主な活動を挙げます。

① PTA 総会

年度初め総会は、大人数での集合を避けるため紙面による開催としました。これには、同日開催予定であった参観会・懇談会を、学年ごとに時間分散させてでも何とか実施したかったという事情もありました。総会と参観会、子どもたちのためにどちらを優先すべきか、という視点で活動を考え直す機会となりました。

② 交通安全リーダーと語る会

1年間、交通安全リーダーとして集団登校を引率する事になる6年生を中心に、PTA役員や地元警察署員も参加して、通学路に潜む危険ポイントの洗い出しをおこないました。入学したばかりの新1年生への対応や、来年度集団登校の中心となる4、5年生への引継ぎ事項についても、活発な意見が出ていました。



通学路の危険ポイントをまとめる6年生

③ 資源リサイクル活動および PTA 奉仕作業

毎年3回行われている資源回収については、感染症対策として校内に一定期間コンテナを設置し、各家庭で搬入する方式としました。一方、校庭整備などの奉仕作業については、通学班ごとに3回に分散されていることもあり、例年どおりに実施しました。

④ 学区内のお店訪問

毎年行われている2年生・生活科学習の一貫で、いくつかのグループに分かれ、学区内にある小売り店舗や飲食店を訪問しました。PTA会員である保護者も同行し、店員さんへのインタビューなどを通じてグループごとに学習の成果をまとめました。

⑤ 運動会のサポート

綱引きなどの密集競技を避け、午前だけの縮小開催でしたが、紅白大接戦となり最後まで見応えのある大会となりました。運営面においては、6年生を中心に児童らが自ら考えたり話し合ったりしながら大会を進める姿があちこちで見られました。

PTAとしてのサポートは主に記録(写真撮影)で、縮小開催であったことや、先生方による配慮もあり、大きな負担はありませんでした。



5, 6年生の表現演技

4. 成果と今後の課題

本年度の活動は、感染症対策の面から無理なく実施可能な規模とやり方でおこなってきました。前年度、前々年度に比べれば正常化に向かいつつある一方で、慣例化していた一部活動の必要性について再考する良い機会となりました。また、児童数の減少により従来規模でのPTA活動や役員選出が困難になりつつあり、コロナ禍はこれを加速させたに過ぎない、とも感じています。withコロナを前提とした新たな取り組みについては今後の課題と考えていますが、従来型の活動についても、「子どもたちを中心に考えているか?」、「会員が楽しみながら参加できるものか?」といった視点から、持続可能な取り組み方を模索する必要があると考えています。同じ課題を抱える近隣小学校とも情報共有を図り、今後のPTA組織・活動について意見を交わす。そのような機会が増え、建設的な議論につながって行く事を願っています。

できる人が、できるときに、できることを

湖西市立東小学校 教頭 大石 誠

1 はじめに

静岡県最西端に位置する湖西市は人口約6万人、自動車産業を中心とした工業、遠州灘、浜名湖そして湖西連峰等の豊かな自然を生かした農業、漁業が盛んです。湖西市PTA連絡会は湖西市内の小中学校11校から構成されており、今年度は東小学校が会長校を務めています。

市の北東部にある本校は平成29年に創立50周年を迎えました。ルーツとなる入出・新所の各小学校は明治時代初期に創設され、古くから地域とのつながりも深い、伝統ある学校です。現在148名の児童が在籍しています。



2 活動のねらい

本校のPTA会員数は今年度100名ほどで、児童数とともに減少傾向にあります。また令和元年度末から現在に至る感染症の影響を受け、従来の活動を中止したり、規模を縮小したりすることを余儀なくされました。その一方でPTA組織、役員数、活動内容についてPTA役員を中心に会員と教職員とで見直しをすすめる機会となりました。

本校PTAの基本方針は「できる人が、できるときに、できることを」です。会員の中にはPTA活動に参加・協力はしたいのだけれど仕事や家庭の事情で難しいという方もいらっしゃいます。全会員が気持ちよく活動をすすめられるようこの基本方針を全会員で共有し、活動をすすめていきたいと考えています。

3 活動の内容

毎年、次年度PTA役員選出の時期になると会員から必ず上がっていた声が「既に役員経験が複数回ある」「推薦も、選出も難しい」というものでした。前述の通り会員数が減少しているにもかかわらず、PTA役員の数会員数の約3割を占める状況に、負担の大きさを感じている会員が多くおられました。役員数の見直しをするにあたり、これまでのPTA活動でどれだけの役員が必要なのか、ボランティアを募ることのできる活動ではないか等を洗い出し、協議・検討をすすめ、表1に示した組織体制と役員数とすることにしました。

役員数は大幅に減少したわけですが、活動自体の停滞を感じることは今のところありません。また、立候補をすすんでされる方も出てくるようになりました。「役員ではないけれど、声をかけてもらえれば協力します」「人手が必要なときは言ってください」といった声も聞こえるようになりました。

従来のPTA活動については、表2に示した通りとなりました。感染症下でPTA活動と同様にこれまでの教育活動(学校行事等)も見直すこととなり、特に運動会やマラソン大会といった体育的行事については、時間の短縮や種目等を見直すことで、これまでPTAに負担をかけていた運営面での協力を必要最小限のものにすることができました。

表1

旧組織体制・役員数			新体制・役員数	
企画運営委員	本部役員	会長 1	本部役員	会長 1
		副会長 3		副会長 3
		会計 1		会計 1
		書記 1		書記 1
	専門委員	学級広報 2		広報体育 2
	体育厚生 2			
	校外活動 2			
その他		学級委員 8		
		地区委員 10		

表2

これまでの活動	新組織体制での活動
企画運営委員会 年6回開催	本部役員会と名称変更 年5回開催
全委員会 年2回開催	廃止
リサイクル活動 年2回実施	年1回の実施
教育講演会 10月ころ実施	感染症拡大防止のため中止
給食試食会 10月ころ実施	感染症拡大防止のため中止
奉仕作業（校内環境整備）年2回実施	廃止
朝の登校指導 学校指定日に年2回	年度内に2回（実施日・時刻・場所は会員設定） ※登下校どちらでもよい
運動会駐車場係 交通整理等	写真撮影補助係
マラソン大会補助 交通整理等	廃止
新旧役員引継会 新年度4月実施	年度内3月実施

4 成果と今後の課題

感染症下でのPTA活動ではありましたが、組織体制・役員数・活動内容の見直しが図れたことは大きな成果であったといえます。一方で児童数・会員数が減少していく中、「できる人が・できるときに・できることを」の基本方針のもとに、子どもたちのためにPTAとして何ができるのか、必要な活動とは何かについては引き続き協議・検討していく必要性を感じています。

そして、会員・職員それぞれが楽しい、やってよかったと感じられるPTA活動をめざしていきたいと思います。

Sustainableな活動へ

～持続可能なPTAを目指して～

浜松市立伊佐見小学校 PTA顧問 伊代田 尚 志

1. はじめに

本校は、浜名湖の東側に位置し、周辺には田園風景が広がる自然豊かな環境に恵まれています。学校の周辺では、ナウマンゾウの化石が発掘されるとともに、詩人「清水みのる」にちなんで公園に“森の水車”が復元されるなど、歴史を感じることができ、令和7年には開校150周年を迎える小学校です。



校内の水車小屋

2. 活動のねらい（現状・課題）

令和3年度はできる限り課題を改善することを目標に、持続可能なPTA活動とするために以下の課題解決に取り組みました。

- 【課題1】 コロナ禍でこれまでと同様の活動ができない
- 【課題2】 資源回収の収益が右肩下がり
- 【課題3】 旧態依然の組織のためPTA役員の成り手がない



改善すべき

3. 活動内容（対応・改善）

① ICTを活用した会議等の実態

これまでの規約では、総会はPTA会員を招集して開催する規定になっていました。しかし、多くの人が同時に集まることは非効率であり、またコロナ禍では難しいため、規約を改正し、書面等による総会開催を可能にしました。

常日頃から学校が利用している「さくら連絡網」というアプリを利用して、アンケート機能で総会議決を行いました。これにより、時間削減効果と資料印刷等の費用削減効果がありました。

メリット①（時間削減）

会員は定時に集まらなくてよい

（都合の良い時間にアプリを確認）

<削減時間 1時間×約300人＝約300時間・人>

メリット②（費用削減）

資料印刷費を大幅に削減

<削減費用 紙10枚×10円×約300部＝約30,000円>

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



【保護者の声】

集まらなくて良いのは便利。

毎回、この方法で良いのでは。

② 児童の持ち込みによる資源回収の実施

これまででは保護者と児童が地区内の住家を回り、新聞紙や段ボールなどの資源物を回収する取り組みを年3回実施していました。

しかし、近年では資源物の回収単価が下がったことや、回収量が減ってきたため、資源回収による収益が右肩下がりとなっている状況でした。加えて新型コロナの影響により、資源回収自体を実施できない事もありました。

そこで、定期的な資源回収とは別に、児童の持ち込みによるアルミ缶回収を実施しました。これにより、収益の確保と各家庭でのリサイクル意識の向上につながりました。また、アルミ缶回収日に保護者が学校で回収の手伝いをする事で、新たに保護者がPTA活動に参加する機会ができたこと、さらには保護者に元氣よく挨拶する児童の姿が見られたことは、収益以上の効果がありました。

③ 実情にあった組織へ変更

PTAにありがちな課題として、児童数が減少しているにも関わらず、これまでと同様の組織で同じように活動しているため、組織が今の時代（実情）にあっていないという事が挙げられます。そこで、以下の対応を実施しました。

- ・児童数の減少に合わせ、地区委員の削減
- ・専門委員会を再編し、各委員会の人数と内容を見直し
- ・役員の任期を年度区切り（4/1～3/31）に変更
- ・個人情報取扱規則を制定

4. 成果と今後の課題

PTAに関わりたくないと思う保護者が少なくない中、資源回収のやり方や組織体制を見直すことによって、PTAとの関わり方を保護者に伝えるとともに、コロナ禍でも継続的に子供たちのために活動する「持続可能なPTA」へシフトしました。

令和4年度は、学校運営協議会（コミュニティスクール）と連携し、保護者による楽しいボランティアを増やしつつあります。今後は、PTAという組織が無くても、保護者が自発的に子供たちのために活動する形になっていければ良いと考えています。

12 つくる責任
つかう責任



伊佐見小学校PTA

試験的に

アルミ缶回収やってみます！

回収日時 1月12日（水）～14日（金）7:20～7:50
回収場所 伊佐見小学校 5,6年の昇降口
回収方法 児童が登校時にアルミ缶を持参する

＜イメージ＞

家 → 学校

昇降口で回収Boxにポイッ

持ち込みルール

- ☑空き缶はキレイに洗って、乾かしてね
- ☑缶はつぶして持ってきてね
- ☑アルミ缶だけだよ（スチール缶はNG）
- ☑安全に持って来られる量にしてね（1缶でもOK）

＜背景＞

例年、PTAでは資源回収を3回実施し、得られた収益は子供たちの活動を支援するために利用してきましたが、昨年度、今年度は新型コロナの影響により、資源回収が満足に実施できていない状況です。

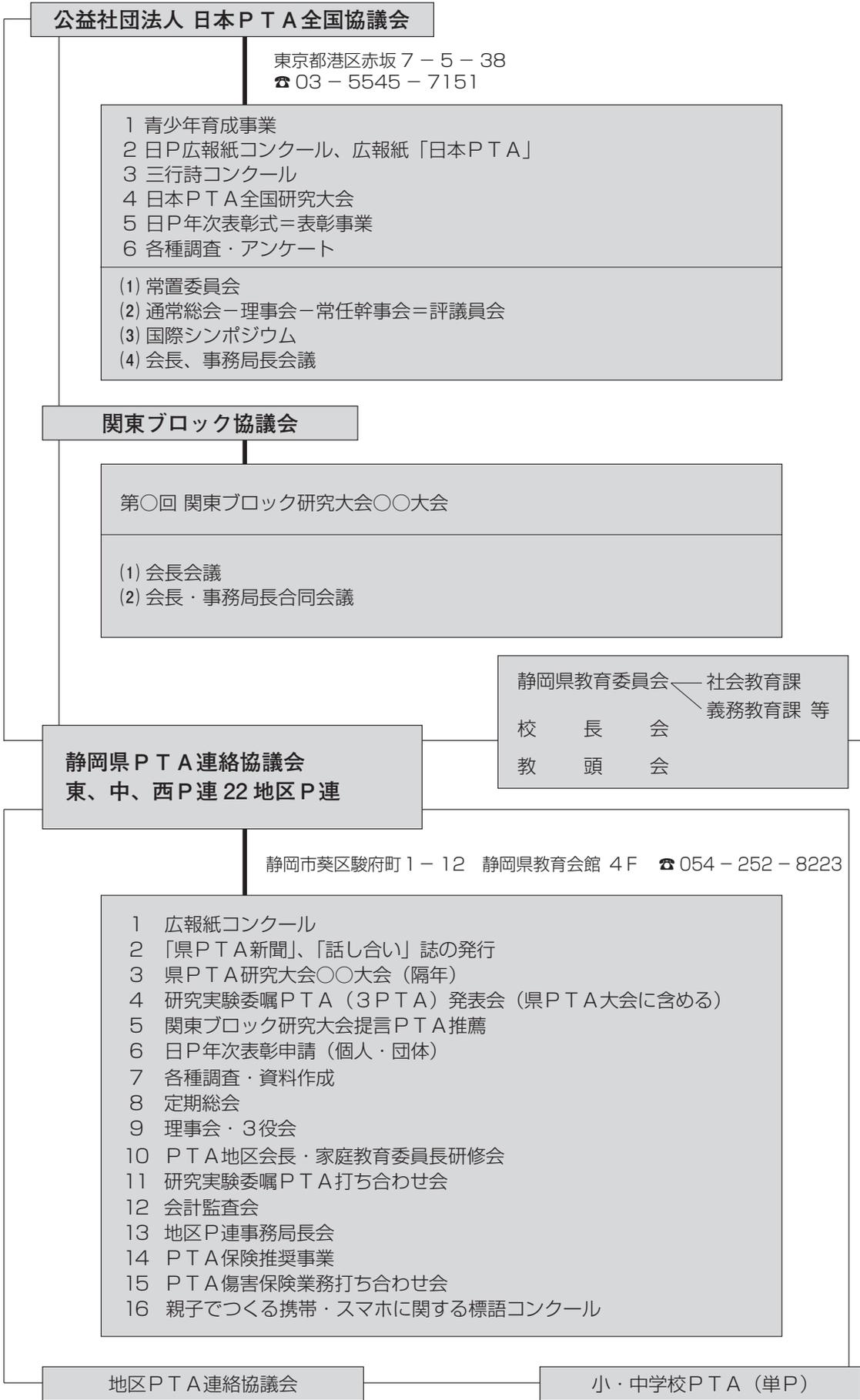
そこで

「収益確保」と「リサイクル意識の向上」を目的に持ち込みによるアルミ缶回収を試験的に実施！

8 働きがいも
経済成長も

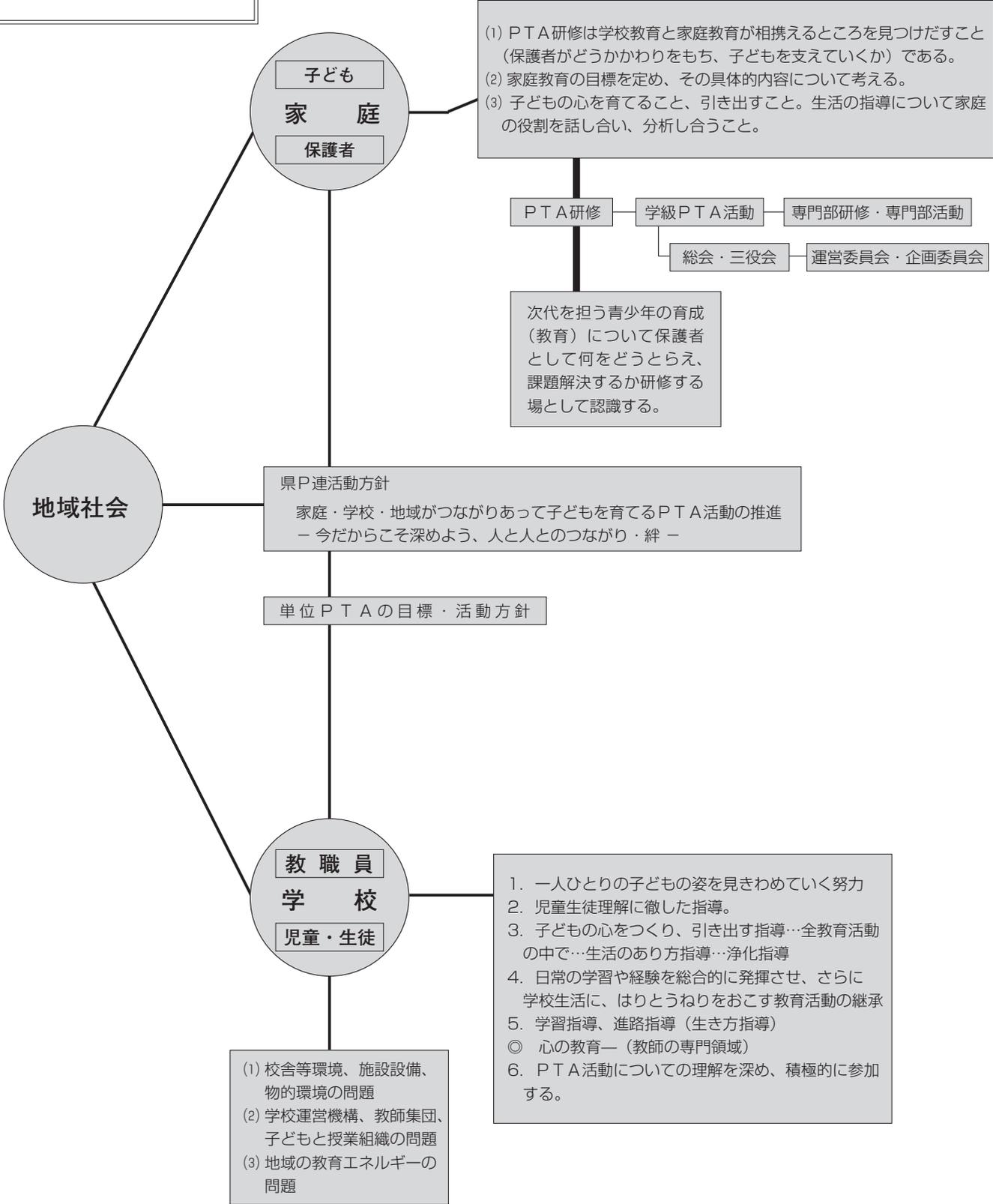


静岡県P連と日Pと関ブロ



家庭・学校・地域
社会が連携して、
子どもを育てる

1. 子どもの心身の育成（体験・指導等による）
2. 子どもを守る（犯罪・交通・事故等から）

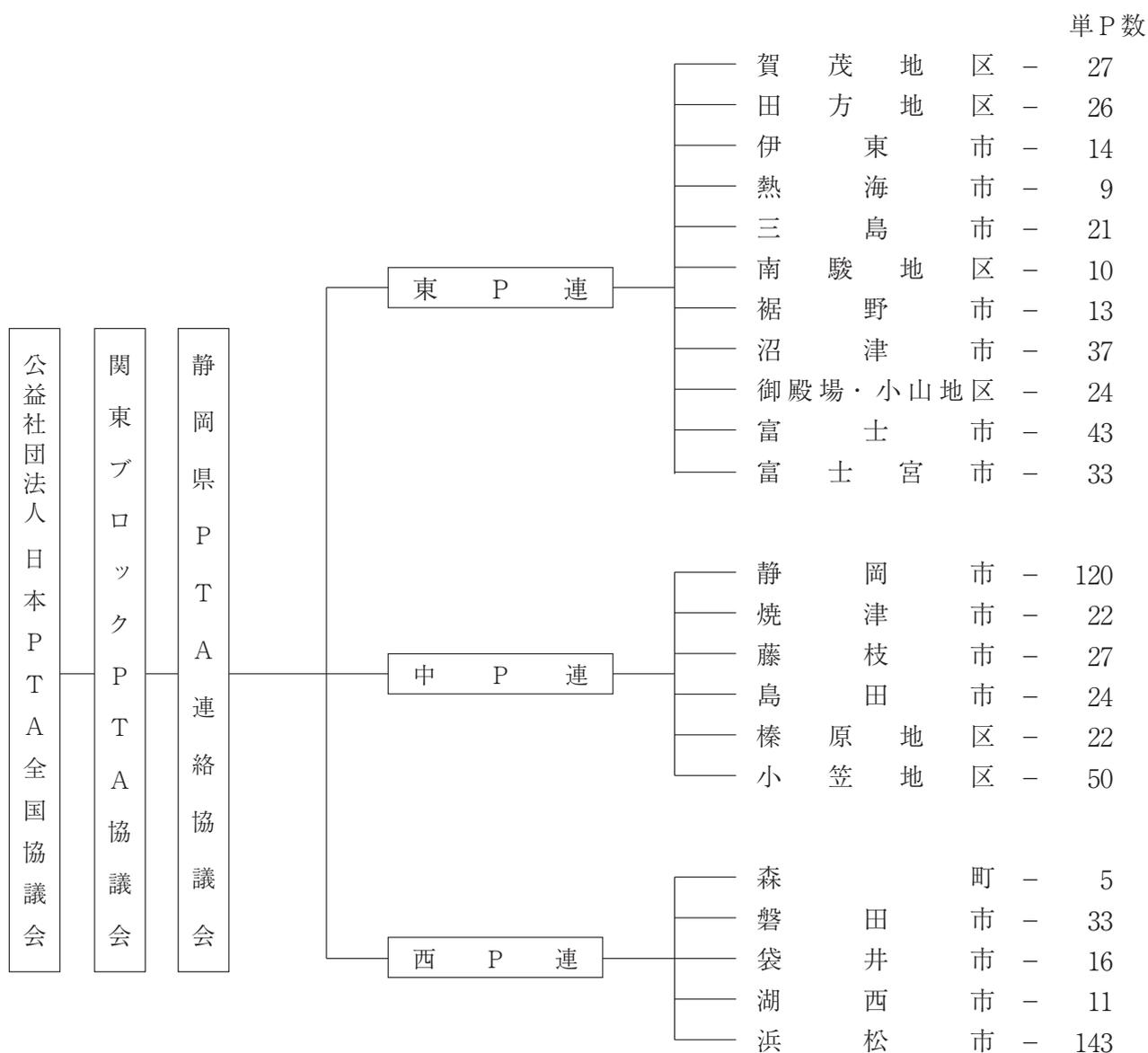




県P連は、22地区P連で組織されています。

令和4年度

— 組織図 —



令和4年度単P数 (計 730)

研修資料「話し合い」 第67号

令和5年5月1日 印刷

令和5年5月30日 発行

編 集 静岡県PTA連絡協議会事務局

発 行 静岡市葵区駿府町1-12

静岡県教育会館4F

静岡県PTA連絡協議会

TEL 054-252-8223

FAX 054-251-9672

印 刷 静岡市葵区流通センター12番1号

大日三協(株)

TEL 054-263-2435

FAX 054-263-2409